

(様式第 10)

福大病庶 171 号
令和元年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

学校法人福岡大学
理事長 賞 正 謹

福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目 19 番 1 号
氏 名	学校法人福岡大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福岡大学病院

3 所在の場所

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目 45 番 1 号	電話(092) 801 - 1011
-----------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	4腎臓内科
⑤神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
①呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科
5血管外科	⑥心臓血管外科	7内分泌外科
		4心臓外科
		⑧小児外科
診療実績		
消化器外科、乳腺外科、心臓外科、血管外科、内分泌外科は外科として標榜している。		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1小児歯科	2矯正歯科	③口腔外科
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科	2病理診断科	3形成外科	4美容外科	5こう門科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
60床	床	床	床	855床	915床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	465人	53人	471.8人	看護補助者	66人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	10人	2人	10.1人	理学療法士	25人	臨床検査技師	69人
薬剤師	68人	3人	69.8人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	46人	0人	46人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	911人	11人	919.8人	臨床工学士	14人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	46人
歯科衛生士	2人	3人	4.7人	歯科技工士	1人	事務職員	162人
管理栄養士	13人	1人	13.9人	診療放射線技師	50人	その他の職員	23人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	38人	眼科専門医	8人
外科専門医	36人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	8人	放射線科専門医	9人
小児科専門医	19人	脳神経外科専門医	11人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	20人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	13人
産婦人科専門医	17人	救急科専門医	10人
		合 計	210人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (井上 亨) 任命年月日 平成 27 年 12 月 1 日

平成 27 年 12 月 1 日より、現在まで医療安全管理委員会委員長として医療安全管理に携わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	735.5人	6.4人	741.9人
1日当たり平均外来患者数	1192.9人	43.9人	1236.8人
1日当たり平均調剤数	1190.8剤		
必要医師数	152人		
必要歯科医師数	4人		
必要薬剤師数	25人		
必要(准)看護師数	413人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	220.84 m ²	鉄筋コン クリート	病床数	10床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	12.80m ² 5台	病床数	1床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	16.80m ²			
化学検査室	307.80m ²	同上	(主な設備) 生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	109.90m ²	同上	(主な設備) 自動血液培養・抗酸菌培養装置、嫌気チャンパー、細胞同定・感受性検査装置			
病理検査室	204.23m ²	同上	(主な設備) 電動ミクロトーム、自動包埋脱水装置、凍結切片作成機クリオスタット、自動染色装置、遺伝子解析装置			
病理解剖室	132.80m ²	同上	(主な設備) 解剖台、カラー臓器撮影装置、骨切装置			
研究室	5449.16m ²	同上	(主な設備) 超小型カラーテレビ 他			
講義室	372.90m ²	同上	室数	2室	収容定員	400人
図書室	2246.16m ²	同上	室数	3室	蔵書数	135,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88.7 %	逆紹介率	67.2 %
算出 根拠	A：紹介患者の数	17,853 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	15,680 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,824 人	
	D：初診の患者の数	23,304 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
横山晋二	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ 無	1
早川晴美	久留米大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ 無	1
田中正利	福岡大学病院		院内監査委員	有 ・無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 病院ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
難治性高コレステロール血症に随伴して重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
重度低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵臓移植(重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病)	0人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	30
2	筋萎縮性側索硬化症	6	57	特発性拡張型心筋症	27
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	3
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	8
6	パーキンソン病	283	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	20
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トウス病	2	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	67	66	IgA腎症	8
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	3
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	51	68	黄色靱帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	7	69	後縦靱帯骨化症	30
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	41
17	多系統萎縮症	28	72	下垂体性ADH分泌異常症	5
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	32	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病	11	74	下垂体性PRL分泌亢進症	4
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	4
22	もやもや病	44	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	15
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	53
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	20	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	1	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	37
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	42
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	5
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	24	89	リンパ脈管筋腫症	11
35	天疱瘡	8	90	網膜色素変性症	14
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	12	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	44
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	12	95	自己免疫性肝炎	7
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	97
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	129
43	顕微鏡的多発血管炎	10	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	107	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	30	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	28	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	15	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	8	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病	4	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4
113	筋ジストロフィー	2	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ベリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリズ症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスマンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳髄黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	6	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	1	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	6
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1	285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クローンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症	1	293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症	1	295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症	2	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌスてんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・患者サポート体制充実加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 入院基本料 (一般病棟7対1 入院基本料)	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料 精神病棟 入院基本料 (精神病棟13対1 入院基本料)	・総合評価加算
・臨床研修病院入院診療加算	・後発医薬品使用体制加算1
・救急医療管理加算	・入退院支援加算1、3
・超急性期脳卒中加算	・入院時支援加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算(50対1)	・データ提出加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1(5割未満))	・地域歯科診療支援病院入院加算
・看護職員夜間12対1配置加算1	・認知症ケア加算1
・看護補助加算2(50対1)	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算
・重症者等療養環境特別加算	・救命救急入院料1
・無菌治療室管理加算2	・救命救急入院料4
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料1
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料3
・精神科リエゾンチーム加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・がん診療連携拠点病院加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・栄養サポートチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料1
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行期加算)	・在宅患者訪問看護・指導料の注2
・高度難聴指導管理料	・歯科治療総合医療管理料
・腎代替療法実績加算	・造血器腫瘍遺伝子検査
・糖尿病合併症管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導料イ	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・がん患者指導料ロ	・持続血糖測定器加算
・がん患者指導料ハ	・遺伝学的検査
・外来緩和ケア管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植の場合)	・抗HLA抗体(スクリーニング検査及び抗体特異性同定検査)
・糖尿病透析予防指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・検体検査管理加算(IV)
・外来放射線照射診療料	・国際標準検査管理加算
・ニコチン依存症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・療養・就労両立支援指導料の注2に規定する相談体制充実加算	・植込型心電図検査
・がん治療連携計画策定料	・時間内歩行試験
・がん治療連携管理料	・胎児心エコー法
・認知症専門診断管理料	・ヘッドアップティルト試験
・肝炎インターフェロン治療計画料	・皮下連続式グルコース測定
・排尿自立指導料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・脳波検査判断料1
・薬剤管理指導料	・神経学的検査
・医療機器安全管理料1	・補聴器適合検査
・医療機器安全管理料2	・コンタクトレンズ検査料1
・医療機器安全管理料(歯科)	・小児食物アレルギー負荷検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内服・点滴誘発試験	・認知療法・認知行動療法1
・CT透視下気管支鏡検査加算	・精神科作業療法
・咬合圧検査	・精神科ショート・ケア「大規模なもの」
・精密触覚機能検査	・精神科デイ・ケア「大規模なもの」
・画像診断管理加算3	・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
・ポジトロン断層撮影	・医療保護入院等診療料
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・CT撮影及びMRI撮影	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
・冠動脈CT撮影加算	・導入期加算2
・心臓MRI撮影加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・外傷全身CT加算	・人工膵臓療法、人工膵臓検査
・大腸CT撮影加算	・一酸化窒素吸入療法
・小児鎮静下MRI撮影加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・頭部MRI撮影加算	・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・CAD/CAM冠
・外来化学療法加算1	・センチネルリンパ節加算
・無菌製剤処理料	・組織拡張器による再建術(乳房(再建時手術)の場合に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)【初期加算含む】	・自家培養軟骨移植術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)【初期加算含む】	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・運動器リハビリテーション料(I)【初期加算含む】	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)
・運動器リハビリテーション料(II)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び交換術
・呼吸器リハビリテーション料(I)【初期加算含む】	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん患者リハビリテーション料(I)	・仙骨神経刺激装置植込術及び交換術(便失禁)
・リンパ浮腫複合的治療料	・羊膜移植術(学会認定施設書の提出の必要性)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・救急患者精神科継続支援料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・ペースメーカー移植術及び交換術(リードレスペースメーカー)
・網膜再建術	・両心室ペースメーカー移植術及び交換術
・人工中耳植込術	・植込型除細動器移植術及び交換術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び交換術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び交換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・上顎骨形成術・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	・経皮的動脈遮断術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・ダメージコントロール手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・体外衝撃波胆石破碎術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外衝撃波膵石破碎術
・同種死体肺移植術	・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
・生体部分肺移植術	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
・内視鏡下筋層切開術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的冠動脈形成術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・胸腔鏡下弁形成術	・同種死体腎移植術
・胸腔鏡下弁置換術	・生体腎移植術
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・膀胱水圧拡張術
・経皮的中心隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ペースメーカー移植術及び交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器)	・
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・輸血管理料(Ⅱ)	・
・貯血式自己輸血管理体制加算	・
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・直線加速器による定位放射線治療	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他)	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・	・
・	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
心臓リハビリテーションと心肺運動負荷検査(CPX)による心血管疾患の予後予測	北島研	循環器内科	2,340,000	補委 日本学術振興会
ナノバブル化アポA-I模倣ペプチドと超音波による新規動脈硬化治療法の開発	今泉聡	循環器内科	1,170,000	補委 日本学術振興会
新規動脈硬化診断指標:LC-MS/MSインプロスタン分析法の臨床的意義の確立	瀬川波子	循環器内科	1,950,000	補委 日本学術振興会
HDLによる新規動脈硬化症診断・治療のトランスレーショナルサイエンスの実践	朔啓二郎	循環器内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
妊娠高血圧症候群重症化予防に向けた血圧変動性の評価と生活習慣指標の作成	椎葉美千代	循環器内科	1,430,000	補委 日本学術振興会
官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発	向坂彰太郎	消化器内科	2,000,000	補委 木原財団
口腔内歯周病菌が腸管免疫・腸内細菌へ与える影響と炎症性腸疾患への関連性の解明	竹田津英稔	消化器内科 内視鏡部	1,560,000	補委 日本学術振興会
肺線維症患者の真菌マイクロバイーム解析と真菌が上皮間葉転換に与える影響の検討	串間 尚子 (研究代表者)	呼吸器内科	1,170,000	補委 日本学術振興会
一般住民における睡眠負債と睡眠時無呼吸症候群が心血管病とCKDに及ぼす影響	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	3,250,000	補委 日本学術振興会
イビキ症の精神生理学的影響について	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	200,000	補委 日本学術振興会
口腔内および腸内細菌叢と冠動脈石灰化との関連を解明する疫学研究	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	50,000	補委 日本学術振興会
衝動性制御不全マウスモデルの行動及び脳内モノアミン動態解析	川崎 弘詔	精神医学	500000	補委 文部科学省科研費
自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業	衛藤 暢明	精神医学	493000	補委 厚生労働省
iPS細胞由来の神経移植で難治性てんかんを治療する	廣瀬 伸一	小児科	800,000	補 日本学術振興会
次世代手法でのノックインラットと人工患者iPS細胞を用いたてんかんの分子治療開発	廣瀬 伸一	小児科	4,300,000	補 日本学術振興会

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児てんかん性脳症の革新的創薬を見据えた病態解析	廣瀬 伸一	小児科	25,654,547	補 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
真に個別患者の診療に役立つ領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの創成	廣瀬 伸一(分担)	小児科	1,000,000	補 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究	廣瀬 伸一(分担)	小児科	300,000	補 厚生労働省
先進的治療法が確立した新たな成育疾患のスクリーニング法の開発とその適応基準の作成に関する研究(分担課題:次世代シーケンサーを利用した遺伝学的診断によるスクリーニング後方支援体制の確立に関する研究)	廣瀬 伸一(分担)	小児科	425,000	補 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
良質なエビデンスに基づく急性脳症の診療に向けた体制整備	石井敦士(分担)	小児科	300,000	補 厚生労働省
KCNQ2変異マウスを用いBFNEとEIBEの病態解明に挑む	井原由紀子	小児科	3,120,000	補 日本学術振興会
川崎病急性期新治療薬「シアル化Fc製剤」の開発	吉兼由佳子	小児科	1,500,000	補 日本学術振興会
バイオマーカーを用いた川崎病急性期治療法選択に関する研究	吉兼由佳子(分担)	小児科	100,000	補 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肺区域切除におけるビタミンB2と光線力学診断用胸腔鏡システムを利用した蛍光法による新しい肺区域同定法の探索的臨床試験	早稲田龍一	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	500,000	補委 公益財団法人臨床研究奨励基金臨床研究助成金
特発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者のQOL向上に関する大規模多施設研究 研究代表:菅野信彦	山本卓明	整形外科	100,000	補委 厚生労働省
骨粗鬆症性軟骨下脆弱性骨折の病態解析と予防法の構築	山本卓明	整形外科	5,000,000	補委 公益財団法人上原記念生命科学財団
骨・軟部腫瘍の診断及び治療に関する研究	西尾 淳	整形外科	500,000	補委 公益財団法人緒方記念科学振興財団
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	秋田定伯	形成外科学	18,720,000	補委 厚生労働省
糖尿病及び慢性腎不全による合併症足潰瘍・壊疽等の重症下肢虚血重症化の予防に関する実態調査	秋田定伯 (代表者:大浦武彦)	形成外科学	代表者一括計上	補委 厚生労働省
口腔内細菌叢とがん、糖尿病など全身疾患との関わりとその予防戦略	秋田定伯 (代表者:浅香正博)	形成外科学	代表者一括計上	補委 厚生労働省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
異種-脱細胞化組織骨格の再細胞化による、再生気管、再生肺の移植研究	秋田定伯 (代表者:土屋智史)	形成外科学	130,000	補 委	文部科学省(学振) 基盤研究B
肥厚性癭痕、ケロイドへ継続発展する慢性感染の分子基盤解明	秋田定伯 (代表者:大慈弥裕之)	形成外科学	100,000	補 委	文部科学省(学振) 基盤研究C
上肢に対する単関節型 Hybrid Assistive Limb (HAL) の医師主導治験	井上 亨	脳神経外科	5,226,000	委	厚生労働省
パーキンソン病重症度を示す生体指標の確立による脳深部刺激条件最適化方法開発	森下 登史	脳神経外科	800,000	補	文部科学省
神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	今福 信一	皮膚科	800,000	補 委	厚生労働省
薬事申請をめざした治療法のない神経線維腫症Ⅰ型の皮膚腫瘍に対する有効で安全な局所大量投与療法薬開発のための医師主導治験	今福 信一	皮膚科	2,068,901	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
ウルトラファインバブルによるDDSを活用した難治性卵巣癌に対する核酸医薬の開発	宮本新吾	産婦人科	1,700,000	補 委	文部科学省科学研究費
膣マイクロバイオームプロファイリングによる早産予防・治療法の開発	漆山大知	産婦人科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費
絨毛膜羊膜炎のリスクを診断する検査法の開発	宮本新吾	産婦人科	1,000,000	補 委	柿原科学技術研究財団
アデノウイルス眼感染症発症メカニズムの分子生物学的解析と治療薬開発の研究	内尾 英一	眼科	1000000	補 委	文部科学省
肝Dual-energy CTの新たな臨床応用:平衡相データを用いた肝線維化診断	吉満研吾	放射線科	1000000	補 委	文科省科研費 基盤研究(C)
定量的画像バイオマーカーとしてのMRE実現に向けた評価法確立とデータベース作成	吉満研吾	放射線科	470000	補 委	文科省科研費 基盤研究(B)
FDG及びMIBGシンチを用いた肺移植前後の右心機能、心臓交感神経機能の研究	長町茂樹	放射線部	1430000	補 委	文科省科研費 基盤研究(C)
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法と高齢者評価ツールの確立および治療効果と毒性に関するバイオマーカーの探索的研究	高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	975,000	補 委	AMED
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	柳瀬敏彦	内分泌・糖尿病内科	400,000	補 委	厚生労働省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	柳瀬敏彦	内分泌・糖尿病内科	150,000	補委 厚生労働省
難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出	柳瀬敏彦	内分泌・糖尿病内科	260,000	補委 AMED
細胞周期を考慮したBKウイルス腎症診断法の確立	升谷 耕介	腎臓・膠原病内科	4,680,000	補委 日本学術振興会
プリオン病の早期診断基準の作成を目指した新たなエビデンス創出とその検証に用いる遺伝性プリオン病未発症例の臨床調査と画像・生体材料の収集	坪井 義夫	脳神経内科	800,000	補委 AMED
パーキンソン病の起因となる腸管α Synuclein以上蓄積に対する腸内細菌層の関与の解明	坪井 義夫	脳神経内科	1,600,000	補委 AMED
HAMの治療薬開発を促進する代替エンドポイントとしてのバイオマーカーの実用化研究	坪井 義夫	脳神経内科	2,200,000	補委 AMED
Perry病診断基準の確立	坪井 義夫	脳神経内科	1,400,000	補委 厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	坪井 義夫	脳神経内科	500,000	補委 厚生労働省
HAMならびにHTLV-1陽性難治性疾患に関する国際的な総意形成を踏まえた診療ガイドラインの作成	坪井 義夫	脳神経内科	300,000	補委 厚生労働省
ビタミンによる様々な神経変性疾患の早期診断法および予防・治療法の開発	坪井 義夫	脳神経内科	100,000	補委 文部科学省
在宅で暮らす認知症の人の介護者支援のためのガイドライン開発	坪井 義夫	脳神経内科	300,000	補委 文部科学省
認知症ワーキングケアラールの介護上のニーズに関する研究	合馬 慎二	脳神経内科	50,000	補委 文部科学省
多系統萎縮症の自然史調査と病気の進行・突然死に寄与するバイオマーカーの探索	藤岡 伸助	脳神経内科	600,000	補委 文部科学省
iPS細胞を用いたPerry症候群患者モデルの確立	三嶋 崇靖	脳神経内科	800,000	補委 文部科学省
Liquid biopsyと腫瘍生検の遺伝子変異パターンによる直腸癌治療の最適化	長谷川 傑	消化器外科	1,000,000	補委 文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
免疫チェックポイント阻害剤の効果予測、治療選択に有用なバイオマーカーの同定	山田哲平	消化器外科	1,000,000	補委 文部科学省
術前運動療法による術後心機能・認知機能低下の予防効果	山浦 健	麻酔科	1,100,000	補委 文部科学省
複合性局所疼痛症候群の機序解明に基づく新規治療戦略の開発	柴田志保	麻酔科	1,800,000	補委 文部科学省
心肺停止蘇生後の記憶障害に対するTNF- α 阻害薬による治療効果の検討	若崎るみ枝	麻酔科	1,300,000	補委 文部科学省
癌関連マクロファージを介した血管新生因子CCN2のリンパ管新生制御機構の解明	近藤 誠二	歯科口腔外科	1,430,000	補委 (独)日本学術振興会
神経筋疾患の嚥下障害が栄養障害に及ぼす影響に関する研究	梅本 丈二	歯科口腔外科	1,170,000	補委 (独)日本学術振興会
新規顎関節部治療材"ナタデココディスク"の開発	吉野 綾	歯科口腔外科	650,000	補委 (独)日本学術振興会
急性肝不全モデルにおけるトロンボモジュリン製剤の効果増強作用	星野 耕大	救命救急センター	1,000,000	補委 学術振興会
基盤研究(C) 課題番号: 24590495 細胞診による中皮腫診断に関する研究:p16 FISHと免疫染色による腫瘍性の確認 平成28年度～平成30年度	鍋島一樹	病理部	700,000	補委 文部科学省科研費
基盤研究(B) 課題番号: 18H02951 側頭骨扁平上皮癌の網羅的組織解析に基づく新規統合的治療戦略の開発 平成30年度科学研究費助成事業	鍋島一樹(分担)	病理部	130,000	補委 文部科学省科研費
平成30年度 石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査業務(新たな免疫染色抗体を用いた中皮腫診断法の開発に関わる調査編)	鍋島一樹(分担)	病理部	2,000,000	補委 環境省
高TG、低HDL血症を中心とした脂質異常症関連遺伝子解析	松永 彰	臨床検査部	900,000	補委 日本学術振興会
非抗菌薬を用いた持続感染細胞の駆逐を目指したMRSAバイオフィルムの制御	高田 徹	感染制御部	2,730,000	補委 文部科学省科研費

小計 13
合計 73

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ueda Y, Shiga Y, Idemoto Y, et al.	循環器内科	Association between the presence or severity of coronary artery disease and pericardial fat, paracardial fat, epicardial fat, visceral fat and subcutaneous fat as assessed by multi-detector row computed tomography.	Int Heart J. 59(4):695-704. 2018 Jul	Original Article
2	Nose D, Shiga Y, Ueda Y, et al.	循環器内科	Association between plasma levels of PCSK9 and the presence of coronary artery disease in Japanese	Heart and Vessels 34(1):19-28 2019 Jan	Original Article
3	Okamura K, Urata H	循環器内科	Simplifying Adrenal Vein Sampling for Cardiologists "New Era of Catheter Treatment for Hypertension"	Hypertension Research 42: 117-119 2019 Jan	Original Article
4	Kato Y, Iwata A, Futami M, et al.	循環器内科	Impact of von Willebrand factor on coronary plaque burden in coronary artery disease patients treated with statins.	Medicine (Baltimore). 97(17):e0589. 2018 Apr	Original Article
5	Yamashita M, Iwata A, Kato Y, et al.	循環器内科	Impact of the triglyceride level on coronary plaque components in female patients with coronary artery disease treated with statins.	Heart Vessels. 33(10):1175-1184. 2018 Oct	Original Article
6	Matsuo Y, Suematsu Y, Tomita S, et al.	循環器内科	Unique mode of binding between angiotensin II type 1 receptor and its blockers.	Clin Exp Hypertens. 19:1-6. 2018 Nov	Original Article
7	Nakanishi J, Suematsu Y, Arimura T, et al.	循環器内科	Recommendations of Lifestyle Modification According to a Survey of First-Year University Students.	J Clin Med Res. 10(10):772-780 2018 Oct	Original Article
8	Kamizono Y, Shiga Y, Suematsu Y, et al.	循環器内科	Impact of cigarette smoking cessation on plasma α -klotho levels.	Medicine (Baltimore). 97(35):e11947. 2018 Aug	Original Article
9	Nose D, Shiga Y, Ueda Y, et al.	循環器内科	Correction to: Association between plasma levels of PCSK9 and the presence of coronary artery disease in Japanese.	Heart Vessels. 34(1):29-32. 2019 Jan	Original Article
10	Yamamoto T, Miura SI, Shirai K, et al.	循環器内科	Renoprotective Benefit of Tolvaptan in Acute Decompensated Heart Failure Patients With Loop Diuretic-Resistant Status.	J Clin Med Res. 11(1):49-55 2019 Jan	Original Article

小計 10

11	Miura SI , Shiga Y , Ike A .et al.	循環器内科	Atherosclerotic Coronary Artery Disease in Patients With Cardiometabolic Syndrome.	Cardiol Res. 10(2):69-73. 2019 Mar	Review
12	Takedatsu, H.Mitsuyama, K.,Fukunaga, S.et al	消化器内科	Diagnostic and clinical role of serum proteinase 3 antineutrophil cytoplasmic antibodies in inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol Hepatol. 2018 Sep, 33:1603-1607	Original Article
13	Ko YL, Moriyama D,Shibata K, et al	消化器内科	Factors Attenuating Zinc Deficiency Improvement in Direct-Acting Antiviral Agent-Treated Chronic Hepatitis C Virus Infection.	Nutrients. 2018 Nov 2;10(11). pii: E1620. (オンライン)	Original Article
14	Takata K, Fukuda H, Umeda K,et al	消化器内科	Fitz-Hugh-Curtis syndrome in a man positive for Chlamydia trachomatis.	Clin J Gastroenterol. 2018 Aug,11(4):338-342	Case report
15	Fukuda H,Takata K,Kitaguchi T, et al	消化器内科	Autoimmune Hepatitis with Concomitant Idiopathic Thrombocytopenic Purpura Diagnosed by Transjugular Liver Biopsy.	Case report in hepatology,2018Dec(オンライ ン)	Case report
16	Takata K, Anan A, Umeda K, et al	消化器内科	Magnetic resonance cholangiopancreatography for afferent loop syndrome	Clinical Case Reports,7:591- 592,2019 Feb	Case report
17	Yamauchi R, Takata K, Shinagawa Y,et al	消化器内科	Hepatocellular carcinoma arising in a noncirrhotic liver with secondary hemochromatosis.	Internal Medicine,,2019Mar 58(5):661-665	Case report
18	Ishii H, Watanabe K, Kushima H,et al.	呼吸器内科	Pleuroparenchymal fibroelastosis diagnosed by multidisciplinary discussions in Japan.	Respir Med, 2018 Aug;141:190-197	Original Article
19	Ishii H, Kushima H, Kinoshita Y, et al.	呼吸器内科	The serum KL-6 levels in untreated idiopathic pulmonary fibrosis can naturally decline in association with disease progression.	Clin Respir J, 2018 Sep,12(9):2411-2418	Original Article
20	Ishii H, Kushima H, Kinoshita Y, et al.	呼吸器内科	The limited impact of psychiatric disease and psychotropic medication on the outcome of hospitalization for pneumonia.	J Infect Chemother, 2018Dec;24(12):1009-1012	Original Article

小計 10

21	Nakao A, Uchino J, Igata F, et al.	呼吸器内科	Nab-paclitaxel maintenance therapy following carboplatin + nab-paclitaxel combination therapy in chemotherapy naive patients with advanced non-small cell lung cancer: multicenter, open-label, single-arm phase II trial.	Invest New Drugs 2018 Oct ;36(5):903-910	Original Article
22	Ishii H, Kinoshita Y, Kushima H, et al.	呼吸器内科	The upward shift of hilar structures and tracheal deviation in pleuroparenchymal fibroelastosis	Multidiscip Respir Med 2019 Mar;14:10	Original Article
23	Nakao A, Hamasaki M, Waseda R, et al.	呼吸器内科	Squamous Cell Carcinoma Appearing as a Multi-Cystic Lesion.	Intern Med 2018 Oct ;57:2907-2909	Case report
24	Kushima H, Ishii H, Shima R, et al.	呼吸器内科	Multiple Pulmonary Metastases of Cutaneous Squamous Cell Carcinoma.	Intern Med 2019 Mar;58(6):833-835	Case report
25	Matsumoto T, Fujita M	呼吸器内科	Bacteria Pathogenesis and Antibacterial Control Ed by Kirmusaoglu: chapter 6 Chronic Pseudomonas aeruginosa infection as the pathogenesis of chronic obstructive pulmonary disease.	InTech Open, Rijeka, Croatia 2018; http://dx.doi.org/10.5772/intechopen.76058 , 2018 Mar (オンライン)	Others
26	Tanaka Y, Sone T, Higurashi N, et al.)	小児科	Generation of D1-1 TALEN isogenic control cell line from Dravet syndrome patient iPSCs using TALEN-mediated editing of the <i>SCN1A</i> gene	Stem Cell Research (vol.28;100-104,2018 Apr)	Original Article
27	Tanaka Y, Higurashi N, Shirasu N, et al.	小児科	Establishment of a human induced stem cell line (FU002-A) from Dravet syndrome patient carrying heterozygous R1525X mutation in <i>SCN1A</i> gene	Stem Cell Research (vol.31;11-15, Aug 2018)	Original Article
28	Watanabe E, Fujita T, Shimono M, et al.	小児科	Recurrent autonomic and sensory neuropathy in a patient with anti-ganglionic acetylcholine receptor antibodies	eNeurologicalSci (vol.12;36-38, Aug 2018)	Case report
29	Waseda R, Benazzo A, Hoetzenecker K, et al	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	The influence of retransplantation on survival for pediatric lung transplant recipients.	J thorac Cardiovasc Surg. 2018; Nov;56 (5): 2025-2034	Original Article
30	Waseda R, Iwasaki A	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Extended sleeve lobectomy: its place in surgical therapy for centrally located non-small cell lung cancer and a review of technical aspects.	J Thorac Dis. 2018 Sep; 10(suppl 26):S3103-S3108	Others

31	Miyahara S, Chen-Yoshikawa TF, Motoyama H, et al.	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Impact of flat chest on cadaveric lung transplantation: postoperative pulmonary function and survival.	Eur J Cardiothorac Surg. 2019 Feb; 1; 55(2):316-322	Original Article
32	Muraoka K, Le W, Behn AW, Yao J.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	The Effect of Growth Differentiation Factor 8 (Myostatin) on Bone Marrow-Derived Stem Cell-Coated Bioactive Sutures in a Rabbit Tendon Repair Model	HAND/2018 Aug 6:1558944718792708. doi: 10.1177/1558944718792708.	Original Article
33	Ishii S, Naito M, Kinoshita K, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	Effects of lateral circumflex femoral artery ligation on blood flow to the surrounding muscles in the direct anterior approach.	Hip Int./2019 Feb 7:1120700019827487. doi: 10.1177/1120700019827487.	Original Article
34	Kanazawa K, Yoshimura I, Hagio T, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	Distal linear metatarsal osteotomy combined with Akin osteotomy for hallux valgus	The open orthopaedic journal/13, 34-41, 2019 1月	Original Article
35	Kanazawa K, Yoshimura I, Hagio T, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	Capsular interposition arthroplasty for end-stage hallux rigidus: short-term results	Foot and Ankle: Studies/2, 1-4, 2018 June	Original Article
36	Seo H, Naito M, Kinoshita K, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	Clinical Outcomes According to Femoral and Acetabular Version After Periacetabular Osteotomy.	JB JS Open Access. 2018 May 29;3(2):e0048. doi: 10.2106/JBJS.OA.17.00048.	Original Article
37	Matsunaga A, Akiho S, Kinoshita K, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	The Prevalence and Risk Factors for Delayed Union of the Superior Pubic Ramus at 1 Year After Curved Periacetabular Osteotomy: its risk factor and outcome	Int Orthop. 2018 Jun;42(6):1253-1258. doi: 10.1007/s00264-017-3706-9.	Original Article
38	Yoshimura I, Hagio T, Noda M, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	Optimal suture anchor direction in arthroscopic lateral ankle ligament repair.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2018 Jul;26(7):2110-2115. doi: 10.1007/s00167-017-4587-6.	Original Article
39	Minokawa S, Yoshimura I, Kanazawa K, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	Effect of minimally invasive distal first metatarsal osteotomy on blood flow of the metatarsal head.	J Orthop Sci. 2019 Jul;24(4):693-696. doi: 10.1016/j.jos.2018.11.021.	Original Article
40	Minokawa S, Naito M, Shiramizu K, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	Preservation technique of the piriformis tendon is superior to reattachment technique in terms of contiguity and muscle atrophy: using magnetic resonance imaging.	Hip Int. 2018 Nov;28(6):599-605. doi: 10.1177/1120700017752565.	Original Article

41	Akiho S, Kinoshita K, Matsunaga A, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	Incidence of delayed union one year after peri-acetabular osteotomy based on computed tomography.	Int Orthop. 2018 May;42(5):1029-1034. doi: 10.1007/s00264-017-3656-2.	Original Article
42	Watanabe H, Tsuchiya T, Shimoyama K, Shimizu A, Akita S, Yukawa H, Baba Y, Nagayasu T.	形成外科、呼吸器外科、病理	Adiposo-derived mesenchymal stem cells attenuate rejection in a rat lung transplantation model.	J Surg Res. 2018 Jul;227:17-27. doi: 10.1016/j.jss.2018.01.016. Epub 2018 Mar 2.	Original Article
43	Kawahara T, Takita M, Masunaga A, Morita H, Tsukatani T, Nakazawa K, Go D and Akita S.	形成外科	Fatty Acid Potassium Had Beneficial Bactericidal Effects and Removed Staphylococcus aureus Biofilms while Exhibiting Reduced Cytotoxicity towards Mouse Fibroblasts and Human Keratinocytes.	Int J Mol Sci. 2019, 20, 312; doi:10.3390/ijms20020312	Original Article
44	Ishimaru H, Yoshimi S, Akita S.	形成外科、放射線科	Treatment of Periorbital and Palpebral Arteriovenous Malformations.	Adv Wound Care. Published Online:10 January 2019, https://doi.org/10.1089/wound.2018.0846	Original Article
45	Wang JY, Ighani A, Ayala AP, Akita S, Lara-Corrales I, Alavi A.	形成外科、小児科、皮膚科	Medical, Surgical, and Wound Care Management of Ulcerated Infantile Hemangiomas: A Systematic Review.	J Cutan Med Surg. 2018 Sep/Oct;22(5):495-504. doi: 10.1177/1203475418770570. Epub 2018 Apr 19	Review
46	Abe H, Morishita T, Samura K. et al.	脳神経外科	Potential of Hybrid Assistive Limb Treatment for Ataxic Gait Due to Cerebellar Disorders Including Hemorrhage, Infarction, and Tumor.	Acta Neurochir Suppl 129:135 - 140, 2018, Sept	Original Article
47	Morishita T, Higuchi M, Kobayashi H. et al.	脳神経外科	A retrospective evaluation of thalamic targeting for tremor deep brain stimulation using high-resolution anatomical imaging with supplementary fiber tractography	Journal of the Neurological Sciences 398:148 - 156, 2019.Mar	Original Article
48	Bayaraa B, Imafuku S	皮膚科	Relationship between environmental factors, age of onset and familial history in Japanese patients with psoriasis.	J Dermatol 2018 Jun;45: 715-718	Original Article
49	Ohga Y, Bayaraa B, Imafuku S.	皮膚科	Chronic idiopathic erythroderma of elderly men is an independent entity that has a distinct TARC/IgE profile from adult atopic dermatitis.	Int J Dermatol 2018 Jun;57: 670-674	Original Article
50	Imafuku S, Zheng M, Tada Y, et al	皮膚科	Asian consensus on assessment and management of mild to moderate plaque psoriasis with topical therapy.	J Dermatol 2018 Jul;45: 805-811	Original Article

小計 10

51	Imafuku S, Yamanaka K.	皮膚科	Interleukin-17-mediated manifestation of psoriasis and tinea.	Australas J Dermatol 2018 Aug(オンライン);59:e233-e234	Original Article
52	Sato E, Hiromatsu K, Murata K, et al	皮膚科	Loss of ATP2A2 Allows Herpes Simplex Virus 1 Infection of a Human Epidermis Model by Disrupting Innate Immunity and Barrier Function.	J Invest Dermatol 2018 Dec;138:2540-2549	Original Article
53	Naito R, Tasaki Y, Koga M, et al.	皮膚科	Lymphoepithelioma-like carcinoma of the skin: a possible culprit when biopsy indicates a benign inflammatory reaction.	Int J Dermatol 2019 Jan(オンライン);58:e4-e6	Original Article
54	Imafuku S, Matsuki T, Mizukami A, et al.	皮膚科	Burden of Herpes Zoster in the Japanese Population with Immunocompromised/Chronic Disease Conditions: Results from a Cohort Study Claims Database from 2005-2014.	Dermatol Ther (Heidelb) 2019 Mar;9: 117-133	Original Article
55	Itoh H, Mogami H et al	福岡大学病院産婦人科	Endometrial stromal cell attachment and matrix homeostasis in abdominal wall endometriomas	Human Reproduction 33:280-291, 2018 1月	Original Article
56	Araki R, Urushiyama D, Kiyoshima C, et al	福岡大学病院産婦人科	Clinical Significance of Preterm Fetal Cardiocography in Severe Fetal Acidemia	Med Bull Fukuoka Univ 45:13-21, 2018 3月	Original Article
57	Izuchi D, Fukagawa S, Yotsumoto F, et al	福岡大学病院産婦人科	Association of Serum HB-EGF Value and Response to Chemotherapy in Patients with Recurrent Ovarian Cancer	Anticancer Res 38: 4347-4351, 2018 12月	Original Article
58	Takahashi Y, Hamasaki M, et al	福岡大学病院産婦人科	Activated EphA2 Processing by MT1-MMP Is Involved in Malignant Transformation of Ovarian Tumors In Vivo	Anticancer Res 38: 4257-4266, 2018 12月	Original Article
59	上村貴志	眼科	Clinical and virological analysis of epidemic keratoconjunctivitis caused by adenovirus type 54 in a regional ophthalmic clinic in Kyushu, Japan	Clin Ophthalmol 12, 511-517, 2018 12月	Original Article
60	宮崎 健	耳鼻咽喉科	Poorly Differentiated Clusters Predict a Poor Prognosis for External Auditory Canal Carcinoma	Head and Neck Pathology 2019.13(2)198-207 June(6月)	Original Article

小計 10

61	Takano K, Hida K, Iwaasa M, et al	放射線科	Three-dimensional spin-echo-based black-blood MRA in the detection of vasospasm following subarachnoid hemorrhage	J Magn Reson Imaging 49(3): 800-807 2019 Mar.	Original Article
62	Yokota R, Sakamoto K, Urakawa H, et al	放射線科	Torsion of right lung sequestration mimicking a posterior mediastinal mass presenting as acute abdomen: Usefulness of MR imaging	Radiology case reports 14(5): 551-554 2019Feb.	Case report
63	Tanaka T, Uchida H.	腫瘍・血液・感染症内科	Inhibition of Survivin by Adenovirus Vector Enhanced Paclitaxel-induced Apoptosis in Breast Cancer Cells	Anticancer Research 38(7):4281-4288,2018.7	Original Article
64	Yanase T., Oki Y., Katabami T. et al.	内分泌・糖尿病内科	New diagnostic criteria of adrenal subclinical Cushing's syndrome: opinion from the Japan Endocrine Society.	Endocr J 65(4):383-393, 2018 Apr26	Original Article
65	Nomiyama T., Shimono D., Horikawa T. et al.	内分泌・糖尿病内科	Efficacy and safety of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor ipragliflozin on glycemic control and cardiovascular parameters in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus; Fukuoka Study of Ipragliflozin (FUSION).	Endocr J 65 (8) :859-867, 2018 Aug27	Original Article
66	Masutani K et al.	腎臓・膠原病内科	Incidence of Hepatitis B Viral Reactivation After Kidney Transplantation With Low-Dose Rituximab Administration.	Transplantation 102(1):140-145.2018 1月	Original Article
67	Sasaki M, Yasuno T, Ito K, Matsunaga A, Hisano S, Abe Y, Miyake K, Masutani K, Nakashima H, Saito T.	腎臓・膠原病内科	Focal segment glomerulosclerosis with heterozygous apolipoprotein E5(G1u3Lyz).	CEN Case Rep 7 (2):225-228 2018 11月	Case report
68	Masutani K.	腎臓・膠原病内科	Viral infections directly involved in kidney allograft function.	Nephrology 23(Suppl 2):31-37,2018 7月	Original Article
69	Mishima T, Fujioaka S, Tomiyama H et al.	脳神経内科	Establishing diagnostic criteria for Perry syndrome.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2018 May; 89(5): 482-487.	Original Article
70	Kinoshita-Kawada M, Hasegawa H, Hongu T et al.	脳神経内科	A crucial role for Arf6 in the response of commissural axons to Slit.	Development.2019 Feb 4;146(3): dev172106. doi: 10.1242/ dev. 172106.(オンライン)	Original Article

小計 10

71	Mishima T, Fujioka S, Fukae J et al.	脳神経内科	Modeling Parkinson's Disease and Atypical Parkinsonian Syndromes Using Induced Pluripotent Stem Cells.	Int J Mol Sci. 2018 Dec; 19(12) 3870. doi: 10.3390/ijms19123870. (オンライン)	Review
72	Takeshita S, Ogata T, Mera H et al.	脳神経内科	Multiple Thrombi in the Heart in Trousseau Syndrome Caused by Pancreatic Carcinoma.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 May; 27(5): e75-e77. (オンライン)	Case report
73	Fujioka S, Tsuboi Y, Friedman JH.	脳神経内科	A novel promising therapeutic approach for patients with ataxic disorders?	Neurology. 2018 Sep; 91(12): 541-542.	Others
74	Yamashita K, Kato D, Sasaki T et al.	消化器外科	Contaminated drainage fluid and pancreatic fistula after pancreatoduodenectomy: A retrospective study	International Journal of Surgery 52:314-319, 2018 4月	Original Article
75	Okada H, Shiwaku H, Yamashita K et al.	消化器外科	Patient with mediastinitis caused by delayed mucosal damage following peroral endoscopic myotomy	Asian Journal of Endoscopic Surgery 12(1):107-110, 2018 4月	Case report
76	Yoshida Y, Sakamoto R, Kajitani R et al.	消化器外科	Biweekly Administration of TAS-102 for Neutropenia Prevention in Patients with Colorectal Cancer	ANTICANCER RESEARCH 38:4367-4373, 2018 7月	Original Article
77	Hasogawa S, Yoshida Y, Morimoto M et al.	消化器外科	Transanal TME: new standard or fad?	Journal of the Anus, Rectum and Colon 3(1):1-9, 2019 1月	Review
78	Matsuoka T, Yoshida Y, Aisu N et al.	消化器外科	Evaluation of vascular pain in patients with colorectal cancer receiving peripheral venous chemotherapy with or without oxaliplatin	SCIENTIFIC REPORTS 9(1):1819, 2019 2月	Original Article
79	高橋 貴理子	麻酔科	TRPM7-mediated spontaneous Ca ²⁺ entry regulates the proliferation and differentiation of human leukaemia cell line K562	Physiological Reports.6(14):e13796, 2018 7月	Original Article
80	安倍 伸太郎	麻酔科	Bacterial contamination upon the opening of injection needles	JA Clinical Reports.4(61):1-6, 2018 8月	Original Article

小計 10

81	市村 まり	麻酔科	Bladder pressure monitoring and CO2 gas-related adverse events during peroralendoscopic myotomy	J Clin Monit Comput.32(6):1111-1116, 2018 12月	Original Article
82	(梅本 丈二) Umemoto G, Toyoshima H, Yamaguchi Y, Aoyagi N, Yoshimura C, Funakoshi K.	歯科口腔外科	Therapeutic Efficacy of Twin-Block and Fixed Oral Appliances in Patients with Obstructive Sleep Apnea Syndrome.	J Prosthodont. 28(2):e830-e836. 2019 Feb	Original Article
83	梅本 丈二	歯科口腔外科	神経筋疾患患者の舌圧と咽頭圧の特徴	BIO Clinica 33(8):761-764, 2018.7	Review
84	Aya Yatsugi, Takashi Morishita, Hiroyuki Fukuda, et al.	リハビリテーション部	Feasibility of Neurorehabilitation Using a Hybrid Assistive Limb for Patients Who Underwent Spine Surgery	Applied Bionics and Biomechanics.2018 July(オンライン)	Original Article
85	Koichi Hyekutake,Takashi Morishita,Kazuya Saita,et al.	リハビリテーション部	Effects of Home-Based Robotic Therapy Involving the Single-Joint Hybrid Assistive Limb Robotic Suit in the Chronic Phase of Stroke: A Pilot Study	BioMed Research International.March 2019(オンライン)	Original Article
86	Kawano Y., Maruyama J., Hokama R., et al	福岡大学病院 救命救急センター	Outcomes in patients with infections and augmented renal clearance: A multicenter retrospective study	PLOS ONE 13:09 doi.org/10.1371/journal.pone.0204814 10月	Original Article
87	Hirano R., Fujita M., Matsumoto T., et al.	福岡大学病院 救命救急センター	Inhaled corticosteroids might not increase the risk of pneumonia in patients with chronic obstructive pulmonary disease in Japan	International Journal of COPD 13:3503-3509, 2018 10月	Original Article
88	Horio Y. Takemoto K., Sakamoto S., et a.	福岡大学病院 救命救急センター	Endovascular reconstruction for a kinked internal carotid artery after carotid endarterectomy	Surg Neurol Int. Published online 2018 7月 13 doi: 10.4103/sni.sni.431_17	Case report
89	Takeshi Shirai, Ryuichiro Hirose, Hiroki Kai, et al	小児外科 総合周産期母子医療センター	Blowhole tangential cecostomy and transanal tube insertion for neonatal cecal perforation in a patient with Hirschsprung's disease in the earlier definitive operation era	Surgical Case Reports 2019 5:111 https://doi.org/10.1186/s40792-019-0667-9 10 July 2019(オンライン)	Case report
90	Hamasaki M, Chang KHF, Nabeshima K, Tauchi-Nishi PS.	病理部	Intraoperative Squash and Touch Preparation Cytology of Brain Lesions Stained with H+E and Diff-Quik™: A 20-Year Retrospective Analysis and Comparative Literature Review.	Acta Cytol 62(1):44-53, 2018 Oct	Original Article

小計 10

91	Kinoshita Y, Watanabe K, Ishii H, Kushima H, Fujita M, Nabeshima K.	病理部	Significant increases in the density and number of lymphatic vessels in pleuroparenchymal fibroelastosis.	Histopathology 73(3):417-427, 2018 Sept	Original Article
92	Kobayashi H, Hamasaki M, Morishita T, Yoshimura M, Nonaka M, Abe H, Inoue T, Nabeshima K.	病理部	Clinicopathological and genetic characteristics associated with brain metastases from lung adenocarcinoma and utility as prognostic factors.	Oncol Lett. 16(4):4243-4252, 2018 Oct	Original Article
93	Daiki Hagiwara, Keisuko Sato, Motoyasu Miyazaki, et al.	薬剤部	The impact of earlier intervention by an antimicrobial stewardship team for specific antimicrobials in a single weekly intervention	International Journal of Infectious Diseases. 2018 Oct; 77, 34-9	Original Article
94	Yutaka Ueda, Kota Mashima, Motoyasu Miyazaki, et al.	薬剤部	Inhibitory effects of polysorbate 80 on MRSA biofilm formed on different substrates including dermal tissue	Scientific Reports. 2019 Feb (オンライン)	Original Article
95	Sato E, Togawa A, Masaki M, Shirahashi A, Kumagawa M, Kawano Y, Ishikura H, Yamashiro Y, Takagi S, To H, Kobata K, Takeshita M, Kusaba K, Sueoka E, Tamura K, Takamatsu Y, Takata T.	福岡大学病院腫瘍血液感染症内科	Community-acquired Disseminated Exophiala dermatitidis Mycosis with Necrotizing Fasciitis in Chronic Graft-versus-host Disease.	Intern Med. 58(6):877-882, 2019. 3	Case report

小計 5
合計 95

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	川平悠人、上田容子、石田紀久、他	循環器内科	失神にて来院した高齢発症の閉塞性肥大型心筋症の一例	臨床と研究 95(4):95-98	Case report
2	森田絵衣、志賀悠平、二見真紀人、他	循環器内科	僧帽弁置換術16年後に弁周因逆流により溶着性貧血を来した一例	臨床と研究 95(9):76-78	Case report
3	森田絵衣、志賀悠平、今泉朝樹、他	循環器内科	心筋シンチグラフィの位相解析と冠動脈瞬時血流予備量比での虚血所見に解離を認めた一例	臨床と研究 95(9):79-83	Case report
4	宮崎嶋、志賀悠平、佐光英人、他	循環器内科	高齢急性心不全患者の多面的評価を実施した2症例	臨床と研究 96(2):114-128	Case report
5	桑野孝志、今泉聡、野瀬大輔、他	循環器内科	PCSK7を標的とした冠動脈疾患治療戦略 Part(1)	Research Vol.24 No.1	Case report
6	北島研、三浦伸一郎	循環器内科	脂質低下薬	臨床と研究 95(6):36-42	Review
7	田代浩平、有村忠晴、末松保憲、他	循環器内科	多発性筋炎とSjogren症候群にBasedow病を合併し発症した肺高血圧症の一例	臨床と研究 95(6):82-86	Review
8	則松賢次、松村敏幸、楠本孝明、他	循環器内科	Distal Radial Approachでの冠動脈造影検査及び冠動脈形成術に関する検討	臨床と研究 95(8):65-69	Original Article
9	朝啓二郎	循環器内科	今こそ、禁煙推進を加速すべきである	臨床と研究 95(8):19-20	Review
10	藤見幹太、北島研、三浦伸一郎	循環器内科	包括的心臓リハビリテーションとは何か?	Modern Physician 38(9):1005-1007	Review

11	北島研、藤見幹太、三浦伸一郎	循環器内科	日本リハビリテーション学会の紹介	Modern Physician 38(10):1093-95	Review
12	藤見幹太、北島研、三浦伸一郎	循環器内科	心臓リハビリテーションの効果	Modern Physician 38(11):1189-1191	Review
13	北島研、藤見幹太、三浦伸一郎	循環器内科	多職種協働	Modern Physician 38(12):1288-1291	Review
14	小川正浩	循環器内科	抗血小板薬2剤併用療法(DAPT)、カテーテルアブレーションを含む周術期の問題	日本医事新報 No4943	Review
15	末松保憲、三浦伸一郎	循環器内科	脂質異常症患者における動脈硬化の検査法	臨床と研究 別冊 96(1)	Review
16	藤見幹太、三浦伸一郎	循環器内科	心臓リハビリテーション	臨床と研究 96(3):39-44	Original Article
17	志賀悠平、井手元良彰、田代浩平、他	循環器内科	血漿 α -klotho値と冠動脈疾患の関連性	臨床と研究 96(3):90-94	Original Article
18	戒能宏治、藤見幹太、北島研、他	リハビリテーション部	レジスタンストレーニング(運動指導含む)	Modern Physician 39(4):417-420	Original Article
19	阿部光市、竹田津英稔	消化器内科	IL-5と消化管疾患	消化器病学サイエンス,2018.12, 2(4);39(203)-42(206)	Review
20	池田貴登、木下義晃、佐々木朝矢、他	呼吸器内科	急速に増大した胸郭内骨外性骨肉腫の1剖検例	日呼吸誌 2018;8(2): 118-122	Case report
21	渡辺憲太郎	呼吸器内科	Plouroparenchymal fibroelastosis (PPFE)の考え方	呼吸器内科 2018;34(3):274-280	Review
22	渡辺憲太郎	呼吸器内科	Plouroparenchymal fibroelastosis (PPFE)の病態	医学のあゆみ 2018;266(2):167-168	Review
23	渡辺憲太郎	呼吸器内科	上葉優位型肺線維症(PPFE)の病態と治療戦略	呼吸器ジャーナル 2018;66(2):302-311	Review
24	藤田昌樹	呼吸器内科	治療の実際—呼吸器専門医から見た喘息、慢性咳嗽の治療	臨床と研究 2018;95(9):1045-1049	Review
25	藤田昌樹	呼吸器内科	感染症とCOPD-発症機序も含めて—	飯塚医師会報 2018;145: 30-31	Review
26	吉村 力	呼吸器内科	心不全に伴うチェーン・ストークス呼吸への適正使用—ASV治療の適応を考える—	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2018;27(3):301-303	Review
27	目井秀門、宮原 聡、今村奈緒子ら	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	肺切除を伴わない気管支管状切除再建術	日呼外会誌 32巻5号(2018年7月)	Case report
28	高木誠司、譚佳榮、川上善久、他	福岡大学医学部形成外科	遊離下腹部皮弁による乳房再建—術中の皮弁血流評価“ex-vivo angiography”について—	Oncoplastic Breast Surgery. 108 Jun.;3(1,2):7-11	Review
29	大慈弥裕之、高木誠司、衛藤明子	福岡大学医学部形成外科	眉毛下皮膚切除術と挙筋前転術—手術のポイントと眼瞼・眉毛の経時的変化—	形成外科(増刊号), 2018.8;61:171-183	Review
30	加加高、高木誠司、坂井拓弥、他	福岡歯科大学口腔歯学部	骨膜下インプラント除去後の上顎歯槽突起欠損を血管枝付腭骨皮弁で再建しインプラント補綴を行った1症例	日本顎顔面インプラント学会誌. 2018.8;17(2):91-99	Case report

31	岡本理沙、高木誠司、大慈弥裕之	福岡大学病院形成外科	【先天性手足疾患の治療】合指(趾)症	形成外科. 2018.10;61(10):1203-1212	Review
32	井上真衣、山口崇之、鈴木翔太郎、他	福岡大学病院形成外科	灯油中毒症と最近感染をきたした広範囲灯油皮膚炎の1例	創傷. 2018;9(1):37-41	Case report
33	洲上淳太、古賀佳織、川上善久、他	福岡大学医学部形成外科	耳垂に生じた筋線維芽細胞肉腫の1例	創傷. 2018;9(3):115-120	Case report
34	Takagi S, Inoue H, Suzuki S, et al.	福岡大学医学部形成外科	Congenital Frontal Vault Depression in a Neonate	Austin Journal of Surgery. 2019.2	Case report
35	Eto A, Takagi S, Yamamichi K, et al.	福岡大学医学部形成外科	Changes in Upper Eyelid and Eyebrow Position before, during, and after Levator Advancement in Patients with Aponeurotic Blepharoptosis.	福岡大学医学紀要. 2019.3;46(1):15-24	Original Article
36	小野淳人、高木誠司、衛藤明子、他	福岡大学医学部形成外科	整容的乳房再建2期手術における三次元画像解析による乳房マウンドの客観的評価の有用性の検討	福岡大学医学紀要. 2019.3;46(1):25-33	Original Article
37	Matsumoto J, Isu T, Kim K. et al.	脳神経外科	Impact of additional treatment of Paralumbar Spine and peripheral nerve diseases after lumbar spine surgery.	World Neurosurgery 112:778-782, 2018	Original Article
38	Nonaka M, Yagi K, Abe H. et al.	脳神経外科	Endoscopic surgery via a combined frontal and suboccipital approach for cerebellar hemorrhage.	Surgical Neurology International 9(68), 2018	Original Article
39	Miki K, Yagi K, Nonaka M. et al.	脳神経外科	Intraoperative Active Bleeding in Endoscopic Surgery for Spontaneous Intracerebral Hemorrhage is Predicted by the Spot Sign.	World Neurosurg 116: e513 - e518, 2018.	Original Article
40	Kobayashi H, Hamasaki M, Morishita T. et al.	脳神経外科	Clinicopathological and genetic characteristics associated with brain metastases from lung adenocarcinoma and utility as prognostic factors	ONCOLOGY LETTERS 16(4):4243 - 4252, 2018.	Original Article
41	Amamoto T, Sakata N, Ogata T. et al.	脳神経外科	Intra-Plaque Vessels on Contrast-Enhanced Ultrasound Sonography Predict Carotid Plaque Histology	Cerebrovascular Diseases 46(5-6):265-269, 2018	Original Article
42	Miki K, Abe H, Morishita T. et al.	脳神経外科	Double-crescent sign as a predictor of chronic subdural hemotoma recurrence following burr-hole surgery	J Neurosurg 4:1 - 7, 2019.	Original Article
43	今村友美、古賀文二、古賀佳織、その他	皮膚科	Streptococcus intermediusが検出された下腿腫瘍の1例	西日本皮膚科 2018 Apr;80:125-128	Case report
44	有隅由芽、伊藤宏太郎、今福信一	皮膚科	BCG接種を契機に発症した生後10ヶ月の乳児乾癬の1例	西日本皮膚科 2018 Jun;80:196-199	Case report
45	今村友美、古賀文二、柴山慶継、その他	皮膚科	電子線照射が著効した浸潤型基底細胞癌の1例	西日本皮膚科 2018 Aug;80:340-343	Case report

小計 15

46	村尾玲、柴山慶継、大賀保範、その他	皮膚科	乳房温存・放射線療法後に発症した血管肉腫の1例	西日本皮膚科 2018 Aug; 80:349-353	Case report
47	國見侑花、大賀保範、伊藤宏太郎、その他	皮膚科	小児皮膚筋炎の2例	西日本皮膚科 2019 Jan;80:14-17	Case report
48	福與麻耶、伊藤宏太郎、今福信一	皮膚科	プロブコールが奏効した正脂血性扁平黄色腫の1例	西日本皮膚科 2019 Jan;80:18-21	Case report
49	Masatoshi Tanaka, Ryusaburo Furuya, Intetsu Kobayashi et al.	腎泌尿器外科	Antimicrobial resistance and molecular characterisation of Neisseria gonorrhoeae isolates in Fukuoka, Japan, 1996-2016	Journal of Global Antimicrobial Resistance 17(2019): 3-7	Original Article
50	平川豊文、南星旭、他	福岡大学病院産婦人科	リボソーム化ドキシペリン長期投与後に発症した舌癌の1例	日本婦人科腫瘍学会雑誌 36:19-24, 2018	Case report
51	吉川賢一、南星旭、他	福岡大学病院産婦人科	子宮腺筋症から発生したと考えられる子宮体癌の1例	福岡産科婦人科学会雑誌 41:22-26, 2018	Case report
52	四元房典、宮本新吾	福岡大学病院産婦人科	がん性腹膜炎の新規治療	日本臨床増刊号 76suppl 2: 683-688, 2018	Review
53	森 貴之	眼科	春季カタルに対する免疫抑制剤眼薬を用いたproactive療法の治療成績	あたらしい眼科 35,243-246, 2018	Original Article
54	前原宏基	耳鼻咽喉科	動眼神経麻痺を呈した蝶形骨洞嚢胞の1例	耳鼻と臨床 2018 64(3):94-100	Case report
55	片岡 舞	耳鼻咽喉科	脳疾患と呼吸器疾患に伴う嚥下障害に対する取り組みの比較	耳鼻と臨床 2018 64(4): 138-144	Original Article
56	木村翔一	耳鼻咽喉科	同種造血幹細胞移植後の浸潤性副鼻腔アスペルギルス症に対し、拡大手術とともに眼球摘出を行い救命し得た1例	耳鼻と臨床 2018 64(5): 163-169	Case report
57	小沢芳博	放射線部	当院のステレオガイド下吸引式乳房組織生検での入射皮膚線量と水晶体線量の測定	日本乳癌検診学会誌・27(1): 56-61 2018 6月	Original Article
58	長町茂樹	放射線部	FDG集積指標を用いた治療効果判定	核医学画像診断	Case report
59	吉満研吾	放射線科	肝のMRエラストグラフィ: MREの現況と今後の展望	臨床画像	Others
60	吉満研吾	放射線科	ADCTIによる腹部ECV (細胞外容積分画) 解析: 肝&膝	INNERVISION	Others
61	長町茂樹	放射線部	内用療法基礎の基礎(後抄録)	内用療法基礎の基礎(後抄録)	Others
62	長町茂樹	放射線部	第58回日本核医学会学術総会、第38回日本核医学技術学会総会学術大会に参加して	臨床核医学	Others
63	Sasaki H, Takamatsu Y.	腫瘍・血液・感染症内科	高齢者の造血器腫瘍治療のリスクアセスメント	癌と化学療法 45(1):16-19,2018	Review
64	Takamatsu Y.	腫瘍・血液・感染症内科	病気のはなし 慢性リンパ性白血病	検査と技術 46(4):426-431,2018	Review
65	茂木 愛、Takamatsu Y.	腫瘍・血液・感染症内科	EBウイルス 悪性腫瘍(Burkittリンパ腫、鼻咽頭がん)	月刊 臨床と研究 95(4):48-50,2018	Review

66	Takamatsu Y.	腫瘍・血液・感染症内科	【ガイドライン改訂にみるがん診療の変遷】支持療法・その他に対するガイドライン 発熱性好中球減少症(FN)診療ガイドライン	腫瘍内科 21(4):469-476,2018	Review
67	Takamatsu Y.	腫瘍・血液・感染症内科	MUGS、多発性骨髄腫の分類と診断	日本臨床 76(7):1059-1064,2018	Review
68	Takamatsu Y.	腫瘍・血液・感染症内科	原発性マクログロブリン血症における遺伝子異常とイブリンの臨床効果	血液内科 77(5):633-638,2018	Review
69	Takata T.	感染制御部	ブドウ球菌感染症 特集 生体および環境におけるバイオフィルム バイオフィルム感染症の診断・治療・予防	臨床と微生物 45(1):51-56,2018	Review
70	Togawa A, Takata T.	感染制御部	特集腹部感染症の画像診断 update 腹腔内感染症診療の動向-最近のトピックを中心に-	画像診断 38(1):8-15,2018	Review
71	Takata T.	感染制御部	特集 多剤耐性菌のアウトブレイクの対応&対策 -グラム陰性耐性菌を中心に- 8. MDRABの最新情報	INFECTION CONTROL 27(1):52-57,2018	Review
72	Araki R, Urushiyama D, Kiyoshima C, et al	産婦人科	Clinical Significance of Preterm Fetal Cardiotocography in Severe Fetal Acidemia due to Chorioamnionitis	Med Bull Fukuoka Univ 45(1):13-21, 2018	Original Article
73	音田 泰裕,太田 栄治,川野裕康 他	総合周産期母子医療センター 新生児部門	Streptococcus gallyticus subsp.pasteurianusによる新生児重症感染症の2例	福岡大学医学紀要 45(2):77-83,2018	Case report
74	平井貴彦,太田 栄治,川野裕康 他	小児科 総合周産期母子医療センター 新生児部門	新生児重症心不全で発症したHADHA遺伝子変異を伴うミトコンドリア三頭酵素欠損症の一例	福岡大学医学紀要 45(2):97-103, 2018	Case report
75	小沢芳博	放射線部	当院のステレオガイド下吸引式乳房組織生検での入射皮膚線量と水晶体線量の測定	日本乳癌検診学会誌 2018,27(1)JUN	Original Article
76	上村忠久	放射線部	放射線部門システムによる「核医学診断、CT撮影およびMRI撮影の検査前の画像診断管理システム」の構築について	第38回(2018)医療情報学連合大会論文集 2018年(オンライン)	Review
77	猿渡一徳	放射線部	ファンビームコリメータを用いた非採血脳血流定量法 (improved brain uptake ratio (IBUR))の基礎的検証	日本放射線技術学会雑誌 2018年74巻11号	Review
78	合渥 康昭	臨床検査部	トロンビンアンチトロンビンIII複合体キット「ナノビARTAT」の基礎的検討	医学と薬学:75(5):529-535, 2018	Original Article
79	高田 徹,照屋 勝治	福岡大学病院感染制御部	各論1. HIV感染者におけるクリプトコックス症	日本医真菌学会,クリプトコックス症の診断・治療ガイドライン2019年1月	Others
80	高田 徹	福岡大学病院感染制御部	MRSA感染症	TODAY'S THERAPY 2019 今日の治療指針 私はこう治療している	Others
81	Imaizumi S, Shiga Y, Ogawa M, et all.	循環器内科	Randomized trial of an increased dose of calcium channel blocker or angiotensin II type 1 receptor blocker as an add-on intensive depressor therapy in type 2 diabetes mellitus patients with uncontrolled essential hypertension: the ACADEMIE Study.	Heart Vessels. 34(4):698-710.	Original Article
82	Shigemoto E, Iwata A, Futami M, et all.	循環器内科	Influence of chronic kidney disease on coronary plaque components in coronary artery disease patients with both diabetes mellitus and hypertension.	Heart Vessels. 34(7):1065-1075.	Original Article

小計 15

83	山内 涼、横山圭二、稲田祥、他	消化器内科	胃腎シャントが自然退縮した肝細胞癌門脈浸潤合併胃静脈癌の1例	日本門脈圧亢進症学会雑誌,2018.7, 24(2),154-160	Case report
84	石橋英樹、二村 聡、蛸嶋善行、他	消化器内科	十二指腸下行脚に狭窄を来したmonomorphic epitheliotropic intestinal T-cell lymphomaの1例	胃と腸, 2018. 11,53(12)1684-1692	Case report
85	Watanabe K	呼吸器内科	Is idiopathic PPFE an established subset of idiopathic interstitial pneumonias?	Respir Investig, 2018 Jan;56:3-4	Original Article
86	田口 公之、衛藤 暢明、川崎 弘詔	精神神経科	「睡眠障害の診断と 治療 過眠症」	月刊「臨床と研究」Vol.95 -No.12,2018	Review
87	畑中 駿仁、衛藤 暢明、川崎 弘詔	精神神経科	「軽い意識障害を見わけろ」	臨床心理学 第18巻第6号	Review
88	原田康平、川崎弘詔	精神神経科	「精神療法のトレーニングについて—精神的な立場から—」	九州精神神経医学 第63巻、第3~4号	Review
89	飯田仁志、横山浩之、永野健太、矢野里佳、富山優子、山口佳美、都合紗耶、松坂希美、川崎弘詔、	精神神経科	【元気になるデイケアII:魅力的なプログラムをどう作るか】(第5章)様々なオリジナルプログラムの作り方 集団を楽しむプログラム スポーツプログラム 精神科体育療法の実践	精神科臨床サービス 18(2): 133-137,2018	Review
90	衛藤 暢明	精神神経科	「自傷行為をしているところを目の当たりにした時に、どのように対応すれば良いですか?」	精神科治療学 198-199,2018	Review
91	川崎 弘詔	精神神経科	「ICD-11をめぐって」	Depression Journal Vol, 17 No.1 メディカルレビュー社 頁16-19, 2019	Others
92	川崎 弘詔	精神神経科	「精神科専門医に聞く! 第8回 うつ病治療と社会復帰について」	CNS情報 Vol.08,2018 8頁, 2018	Others
93	永野健太、川崎弘詔	精神神経科	「性の多様性について」	福岡大学 七隈の杜 頁21-26, 2018	Others
94	川崎 弘詔	精神神経科	「新編集委員就任にあたって」	日本デイケア学会誌 デイケア実践研究 Vol.22, No.1-2018	Others
95	田口公之、衛藤暢明、川崎弘詔	精神神経科	「過眠症」	大道学館出版部 「臨床と研究」 頁24-27,2018	Others

96	加中聡仁、 衛藤暢明、 川寄弘詔	精神神経科	「軽い意識障害を見わける」	金剛出版「臨床心理学」 頁671-676,2018	Others
97	横山浩之(分 担)	精神神経科	スポーツ精神医学 改訂第2 版	診断と治療社 pp.100-104, 2018	Others
98	加藤忠史、 井形亮平、 大串祐馬、 小畑洋平、 川口貴子、 田中弘子、 中村匠、 原田康平、 堀輝(編集)	精神神経科	Depression and Anxiety 日本 語版/Vol.2 No.3	ワイリー・パブリッシング・ジャ パン株式会社 2018年6月号	Others
99	川寄弘詔、飯 田仁志、衛藤 暢明、大串祐 馬、川口貴子、 原田康平(編 集)	精神神経科	Depression and Anxiety 日本 語版/Vol.2 No.4	ワイリー・パブリッシング・ジャ パン株式会社 2018年10月 号	Others
100	衛藤暢明(分 担)	精神神経科	HOPEガイドブック 救急医療から地域へつなげ る自殺未遂者 支援のエッセ ンス 「精神疾患に起因した 自殺の予防法に関する研究」	へるす出版 2018年5月 p.57	Others
101	衛藤暢明(分 担)	精神神経科	HOPEガイドブック 救急医療から地域へつなげ る自殺未遂者 支援のエッセ ンス 第2章自殺未遂者支 援のためのケース・マネージ メント	へるす出版 2018年5月 p.80-83	Others
102	衛藤暢明(分 担)	精神神経科	HOPEガイドブック 救急医療から地域へつなげ る自殺未遂者 支援のエッセ ンス 第3章自殺未遂者支 援のために必要な知識	へるす出版 2018年5月 p.116-119 p.153-155	Others
103	衛藤暢明(分 担)	精神神経科	救急現場における精神科的問 題の初期対応 PEECガイド ブック 多職種で切れ目のな い標準的ケアを目指して	へるす出版 2018年5月 p.117-124	Others
104	井上貴仁、廣 瀬伸一	小児科	特集 けいれん・意識障害: 意識障害に関する知識 脳浮腫、頭蓋内圧の評価	小児内科 (vol.50(4):582-585,2018)	Review
105	石井敦士	小児科	遺伝学的検査に振り回されな い小児神経診察:適応から結 果解釈・説明まで てんかんの 遺伝子検査	脳と発達 (vol.50(3):189-191,2018)	Review
106	Waseda R, Tatsumoto I, Tatsuzawa Y, et al	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Successful surgical fixation using bio-absorbable plates for frail chest in a sever osteoporotic octogenarian.	Ann Thorc Cardiovasc Surg. 2018 Mar 22.	Case report
107	Doi N, Izaki T, Miyake S, Shibata T, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	Intraoperative evaluation of blood flow for soft tissues in orthopaedic surgery using indocyanine green fluorescence angiography	Bone Joint Res. /2019;8:118- 125. doi: 10.1302/2046- 3758.83.BJR-2018-0151.R1. 2019Apr	Original Article
108	Ishimatsu T, Kinoshita K, Nishio J, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Fukuoka University Faculty of Medicine	Motor-evoked potential analysis of femoral nerve status during the direct anterior approach in total hip arthroplasty	J Bone Joint Surg Am/100(7):572-577, 2018Apr	Original Article
109	田中祥継	福岡大学医学部整形外科	母指CM関節症に対する長帯 筋腱を用いたLigament Reconstruction Suspension Arthroplastyの短期成績	日本手外科学会雑誌 (2185- 4092)35巻4号 Page577-580	Original Article
110	萩尾友宣, 吉 村一朗, 金澤 和貴, 他	福岡大学医学部整形外科	外反母趾に対するDLMO法の 予後不良因子	日本足の外科学会雑誌 39(1)3-9, 2018	Original Article

111	金澤和貴, 三宅智, 山本卓明, 他	福岡大学医学部整形外科	当院における小児上腕骨顆上骨折の治療成績の検討	骨折 40(1)45-49, 2018	Original Article
112	柴田光史, 伊崎輝昌, 三宅智, 他	福岡大学医学部整形外科	化膿性肩関節炎に対する鏡視下手術の短期成績	肩関節 42(2)540-542, 2018	Original Article
113	石松哲郎, 木山貴彦, 佐伯和彦, 他	福岡大学医学部整形外科	opening wedge high tibial osteotomy後の脛骨内側プレート傾斜の評価	日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌 JOSKAS 43(1)252-253, 2018	Original Article
114	木山貴彦, 佐伯和彦, 前山彰, 他	福岡大学医学部整形外科	内側半月板後角損傷併発例に対するopening wedge 高位脛骨骨切り術の検討	日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌 JOSKAS 43(1)284-285, 2018	Original Article
115	藪川創, 吉村一朗, 金澤和貴, 他	福岡大学医学部整形外科	変形性足関節症に対する鏡視下足関節固定術後の隣接関節の関節症性変化について	日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌 JOSKAS 43(3)836-839, 2018	Original Article
116	石井聡大, 木山貴彦, 佐伯和彦, 他	福岡大学医学部整形外科	高位脛骨開大骨切り術後感染例の検討	日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌 JOSKAS 44(1)94-95, 2019	Original Article
117	小林駿介, 吉村一朗, 金澤和貴, 他	福岡大学病院 整形外科	Os Peroneum障害の治療経験	整形外科と災害外科 67(1)64-66, 2018	Original Article
118	石松哲郎, 前山彰, 森山茂章, 他	福岡大学医学部整形外科	β -TCPの力学的検討	整形外科と災害外科 67(2)292-295, 2018	Original Article
119	田中秀明, 田中祥継, 副島修, 他	福岡大学病院 整形外科	母指CM関節症に対するMini TightRopeを用いたThompson変法の短期治療成績	整形外科と災害外科 67(3)593-596, 2018	Original Article
120	藤田潤, 吉村一朗, 萩尾友宣, 他	福岡大学病院 整形外科	Cystを伴った距骨軟骨障害に対する骨移植術	整形外科と災害外科 67(4):777-782, 2018	Original Article
121	秀島義章, 花田弘文, 藤原明, 他	福岡大学病院 整形外科	前十字靭帯再建術後の外側型変形性膝関節症における大腿骨遠位骨切り術の治療経験	整形外科と災害外科 67(3)452-456, 2018	Case report
122	黒木文裕, 伊崎輝昌, 三宅智, 他	福岡大学病院 整形外科	穿刺後再発を生じた肩甲上神経麻痺を伴う肩関節唇嚢腫の1例	整形外科と災害外科 67(3)556-558, 2018	Case report
123	田中秀明, 田中祥継, 副島修, 他	福岡大学病院 整形外科	母指CM関節症に対するMini TightRopeを用いたThompson変法の短期治療成績	整形外科と災害外科 67(3)593-596, 2018	Case report
124	萩原秀祐, 信藤真理, 田中潤, 他	福岡大学病院 整形外科	胸椎Melanotic schwannomaの1例	整形外科と災害外科 67(3)632-635, 2018	Case report
125	藤田仁朗, 田中潤, 信藤真理, 他	福岡大学病院 整形外科	仙骨骨折を伴う不安定型骨盤骨折に対しSpino-Pelvic fixationで治療した1例	整形外科と災害外科 67(4)758-761, 2018	Case report
126	竹山文徳, 金澤和貴, 吉村一朗, 他	福岡大学病院 整形外科	手術を施行したアルファトン尿症性足関節症の1例	整形外科と災害外科 67(4)783-787, 2018	Case report
127	白井隆之, 吉村一朗, 金澤和貴, 他	福岡大学病院 整形外科	両足根骨癒合症に対して両側同時癒合部切除術を施行した1例	整形外科と災害外科 67(4)774-776, 2018	Case report
128	小田大嘉, 前山彰, 萩尾友宣, 他	福岡大学病院 整形外科	診断に苦慮した膝関節炎の1例	九州リウマチ 38(1)63-69, 2018	Case report
129	山本卓明	福岡大学医学部整形外科	大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折-脊椎変形との関連を含めて-	関節外科 37(2):199-203, 2018	Review
130	山本卓明	福岡大学医学部整形外科	【腱板断裂治療のフローチャート】一次修復が困難な腱板断裂の治療 リバーズ型人工肩関節全置換術	関節外科 37(7)821-829, 2018	Review

131	山本卓明	福岡大学医学部整形外科	ステロイド治療(関節リウマチを含めた)に伴う骨壊死-安全で倫理的な医療を目指して-	臨床と研究 95(8):99-104, 2018	Review
132	山本卓明	福岡大学医学部整形外科	特集:RA治療後の副作用-機序、臨床的特徴と対応策 ステロイド関連 大腿骨頭壊死症	リウマチ科 60(5)492-6,2018	Review
133	吉村 一朗, 萩尾 友宜, 鈴木 正弘, 他	福岡大学医学部整形外科	足関節捻挫として見過ごされている症候群	臨床整形外科 53(5)419-426,2018	Review
134	吉村 一朗, 義川 創, 萩尾 友宜, 他	福岡大学医学部整形外科	変形性足関節症のフロントライン 変形性足関節症に対する鏡視下手術	臨床整形外科 53(6)469-474,2018	Review
135	塩田悦仁	福岡大学医学部整形外科	リハビリテーション用語の起源を訪ねる - Marfan syndrome	Journal of Clinical Rehabilitation (臨床リハ) 27(3):266-267,2018	Review
136	萩尾友宜, 吉村一朗	福岡大学医学部整形外科	足部神経障害の診かた	MB Orthop. 32(1):63-68,2019	Review
137	吉村一朗	福岡大学医学部整形外科	足底腱膜炎	今日の治療指針 2018.1.1	Others
138	吉村一朗	福岡大学医学部整形外科	「1. 7) 足関節鏡」	足の外科テキスト 2018.11.10	Others
139	秋田定伯	形成外科	難病対策の歴史的経緯と血管腫・脈管(血管)奇形の医療扶助-改正難病二法に関して-特集 患児・家族に寄り添う血管腫・脈管奇形の医療	PEPARS. 145:80-93, 2019年1月	Review
140	秋田定伯(監修、分担)	形成外科	クロイド・肥厚性瘢痕 診断・治療指針2018	全日本病院出版会. pp.1-93,2018.	Others
141	今福信一、楠原正洋、国場尚志 その他	皮膚科	尋常性乾癬患者に対するカルシポトリオール水和物/ベタメダゾンジプロピオン酸エステル軟膏の長期有効性および安全性の検討	日本皮膚科学会雑誌 2018 Apr;128:589-600	Original Article
142	Yanase T., Yanagita I., Muta K., et al.	内分泌・糖尿病内科	Frailty in elderly diabetes patients.	Endocr J. 65(1):1-11, 2018 Jan30	Review
143	宮田昌明、安井裕貴、西田義弘他	腎臓・膠原病内科	迅速発育抗酸菌感染によりカテーテル抜去に至った腹膜透析症例.	九州人工透析研究会誌 3: 9-13, 2018	Case report
144	浜内亜希、宮田昌明、尾崎智美 他	腎臓・膠原病内科	重症妊娠高血圧症候群を合併した血液透析患者の高齢出症症例.	腎と透析 85(3): 461-466, 2018	Case report
145	長城晃一、池永昌弘、藤岡伸助、坪井義夫.	脳神経内科	パーキンソン病患者における日中身体活動量の活動強度別の特徴および歩数との関連性.	作業療法 2018年4月; 37(2): 137-144.	Original Article
146	藤岡伸助、坪井義夫、櫻場郁子.	脳神経内科	【4大認知症以外の「その他の認知症」について;診断をする際のポイントと最近の知見】大脳皮質基底核変性症(CBD)/進行性核上性麻痺(PSP)の臨床.	老年精神医学雑誌, 2018年6月; 29(6): 603-612.	Review
147	緒方 利安	脳神経内科	脳主幹動脈狭窄を有する患者における認知機能の検討.	脳卒中 2018年4月; 40(2): 96-99.	Review
148	坪井 義夫	脳神経内科	脳出血の診療	臨床と研究 2018年10月; 95(10): 1096-1099.	Others
149	Shiwaku H, Yamashita K, Inoue H et al.	消化器外科	Closure of a mucosal entry using the clip-with-line method	Ann Gastrocenterol 31(2):252, 2018 2月	Review
150	Hasegawa S, Okada T, Kojima D et al.	消化器外科	TaTME for Abdominoperineal Resection	Transanal Minimally Invasive Surgery(TAMIS)and Transanal TotalMesorectal Excision (taTME) p.419-427,2019 4月 (Sam Atallah,editor) Springer	Others

151	(吉野 綾) Yoshino A, Seto M, Mano R, Kita R, Ishida S, Aoyagi N, Shimamura T, Kondo S	歯科口腔外科	Rectal administration of midazolam plus ketamine as conscious sedation for injured paediatric patients requiring Oral surgery	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 31(4):241-244 2019 July	Original Article
152	(瀬戸 美夏) Seto M, Kita R, Kondo S	歯科口腔外科	Sedation with dexmedetomidine in elderly patients during dental surgery: a retrospective case series	J Korean Assoc Oral Maxillofac Surg 45(3): 152~157 2019 June	Original Article
153	黒坂航、鎌田 聡、伊崎輝昌、 他	リハビリテーション部	リバーズ型人工関節置換術後の脳神経機能障害に対する単関節型ロボットスーツ(HAL-SJ®)の使用経験	人工関節学会誌, 2018年; 第4 8巻: 733-734	Original Article
154	吉丸 耕一朗, 廣瀬 龍一郎, 桐野 浩輔, 他	福岡大学 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	【私の施設の術前・術後管理 (ICから退院指導まで)】 Hirschsprung病(Duhamel手術)	小児外科 50(10) 1019-1023, 2018.10	Review
155	廣瀬龍一郎, 寺倉宏嗣	福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	腹腔鏡下噴門形成術	小児外科 51(4): 351-356, 2019.4	Review
156	Hamasaki M, Kinoshita Y, Yoshimura M, Matsumoto S, Kamei T, Hiroshima K, Sato A, Tsumimura T, Kawahara K, Nabeshima K.	病理部	Cytoplasmic MTAP expression loss detected by immunohistochemistry correlates with 9p21 homozygous deletion detected by FISH in pleural effusion cytology of mesothelioma.	Histopathology. 75(1): 153-155, 2019 July	Original Article
157	Yuka Fukue, Hideki Kakimoto, Emi Nishida, et al.	薬剤部	経時的な液性変化に基づいたオキサリプラチン後発医薬品の選定	薬理と治療. 2019 Jan; 47, 121-5	Original Article
158	Yoshimura M, Kinoshita Y, Hamasaki M, Matsumoto S, Hida T, Oda Y, Nabeshima K	病理部	Highly expressed EZH2 in combination with BAP1 and MTAP loss, as detected by immunohistochemistry, is useful for differentiating malignant pleural mesothelioma from reactive mesothelial hyperplasia	Lung cancer 130:187-193, 2019 April	Original Article
159	Kako Takeda, Takafumi Nakano, Fumika Dokura, et al.	薬剤部	ICUから一般病棟転棟後にランプラゾールによる collagenous colitis の発症が疑われた1例	日本病院薬剤師会雑誌. 2018 Apr ; , 54, 423-7	Case report
160	Tomomi Nakamura, Hiroyasu Ishikura, Takafumi Nakano, et al.	薬剤部	急性腎障害合併播種性血管内凝固症候群患者に対する遺伝子組み換えヒト可溶性トロンボモジュリン製剤の至適投与量の検討	日本臨床救急医学会雑誌. 2018 Aug; 21, 589-96	Original Article
161	Shohei Matsuzaki, Yuki Yasutaka, Shinsuke Fujioka, et al.	薬剤部	メマンチン塩酸塩投与による副作用発現の危険因子に関する後方視的調査	薬理と治療. 2018 Sep; 46, 1543-8	Original Article
162	Motoyasu Miyazaki, Akio Nakashima, Yoshihiro Nakamura, et al.	薬剤部	Association between medication adherence and illness perceptions in atrial fibrillation patients treated with direct oral anticoagulants : An observational cross-sectional pilot study	PLOS ONE. 2018 Sep (オンライ ン)	Original Article

小計 12
合計 162

- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 福岡大学医に関する倫理委員会標準業務手順書 医に関する倫理委員会審査事項、迅速審査事項及び報告事項	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 福岡大学利益相反に関する規定 福岡大学臨床研究に係る利権相反ポリシー 福岡大学臨床研究に係る利益相反マネジメント委員会に関する内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 医学系研究の倫理指針について 利益相反 (COI) について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

内科専攻医研修プログラムに基づく研修
消化器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
呼吸器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
精神科専門医研修プログラム
小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
整形外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
形成外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
脳神経外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
心臓血管外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
皮膚科後期臨床研修プログラムに基づく研修
泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム」に基づく研修
産婦人科後期臨床研修プログラムに基づく研修
眼科後期臨床研修プログラムに基づく研修
耳鼻咽喉科専門研修プログラムに基づく研修
放射線科後期臨床プログラムに基づく研修
歯科口腔外科後期臨床研修プログラムに基づく研修

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	95.2 人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
三浦 伸一郎	循環器内科	主任教授	25年	
向坂 彰太郎	消化器内科	主任教授	40年	肝胆膵 領域
竹田津 英稔	消化器内科 内視鏡部	准教授	22年	消化管 領域
藤田 昌樹	呼吸器内科	主任教授	32年	
川崎 弘詔	精神神経科	主任教授	34年	
廣瀬 伸一	小児科	主任教授	39年	
岩崎 昭憲	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	主任教授	38年	
山本 卓明	整形外科	主任教授	29年	
高木 誠司	形成外科	診療教授	24年	
井上 亨	脳神経外科	主任教授	39年	
和田 秀一	心臓血管外科	主任教授	27年	
今福 信一	皮膚科	主任教授	27年	
田中 正利	泌尿器科	主任教授	39年	
宮本 新吾	産婦人科	主任教授	36年	
内尾 英一	眼科	主任教授	24年	
坂田 俊文	耳鼻咽喉科	主任教授	33年	
吉満 研吾	放射線科	主任教授	33年	
山浦 健	麻酔科	主任教授	27年	

喜多村 泰輔	救命救急センター	准教授	26年
近藤 誠二	歯科口腔外科	主任教授	27年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容	院内教育（全職員対象）
・研修の期間・実施回数	平成30年度 14回開催（全体教育10回、実践セミナー4回）
・研修の参加人数	医療安全 4,654名、感染 4,431名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容	新採用者に対する研修
・研修の期間・実施回数	4月上旬～中旬 2日間 計4回
・研修の参加人数	158名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
・研修の主な内容	メディカルセミナー
・研修の期間・実施回数	平成30年度 4回開催
・研修の参加人数	4回合計 274名
・研修の主な内容	糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会
・研修の期間・実施回数	平成30年度 4回開催
・研修の参加人数	4回合計 113名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 井上 亨	
管理担当者氏名	庶務課長 赤木須美男 医療情報部事務室長 小陽賢一 薬剤部長 神村英利	医事課長 江渕猛雄 放射線部技師長 上村忠久

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	看護部
		検査所見記録	臨床検査部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医事課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部

				応することとし、病院外への持ち出しを禁止した。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	三項に掲げる事項	規則第二十一条の三第	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	先進医療実績報告(帳簿管理)
			高度の医療の提供の実績	庶務課	
			高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課	
			高度の医療の研修の実績	庶務課	
			閲覧実績	庶務課	
			紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携センター	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	紙媒体で台帳保管、またデータ保管。	
	一項に掲げる事項	規則第一条の十一第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	以下項目、上記と同じ
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
			医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 医療安全管理部 庶務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター
			感染制御部にて管理 以下項目、上記に同じ 薬剤部にて一括管理 以下項目、上記に同じ 臨床工学センターにて一括管理 以下項目、上記に同じ

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理 以下項目、上記に同じ
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部	
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部	
		職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者が有する権限に関する状況	医療安全管理部	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医療安全管理部			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医療安全管理部			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	事務長 立花 時弘		
閲覧担当者氏名	庶務課長 赤木 須美男、医事課長 江淵 猛雄 医療情報部事務室長 小陽 賢一		
閲覧の求めに応じる場所	病院西別館3階B会議室		
閲覧の手続の概要			
閲覧を希望の際には庶務課へ申請を行い、閲覧室である病院西別館3階B会議室にて閲覧を行う。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">安全管理に関する基本的考え方安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項安全管理のための職員研修に関する基本方針安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針医療事故等発生時の対応に関する基本方針患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針患者からの相談への対応に関する基本方針その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">設置の有無 (有 無)開催状況：年 12 回活動の主な内容：医療安全管理委員会 (1 回 / 月)	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none">研修の内容 (すべて)：<ol style="list-style-type: none">医療安全院内教育 8 回	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機関内における事故報告等の整備 (有 無)その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">医療事故・合併症・重要なインシデント事例の検討・医療安全教育の企画。医療安全管理者が抽出したインシデント事例を医療安全管理部小委員会で検討し、改善を要するものはセーフティマネジャー会を通じて伝達している。また、全職員に電子カルテ掲示板で会議資料を公開し、安全管理・危機管理意識の向上に努めている。医療安全管理責任者および医療安全管理者は、事故・インシデント・合併症発生時など、必要に応じて当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を開いて、迅速な対応を心掛けている。病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。「安全管理レポート」(毎月)と「医療安全情報」(適時)を発行し、全職員へフィードバックおよび周知徹底を図っている。医療安全管理院内ラウンドを月 1 回実施し、現状把握および周知徹底を図っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応 6. 感染対策の閲覧に関する基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 各12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： ・ 感染対策委員会（1回／月） ・ 感染制御部会議（1回／月） ・ セーフティーマネジャー会（1回／月） ・ 看護部部内感染対策委員会（1回／月） 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： 1. 医療安全院内教育 5 回 2. 医療安全実践セミナー 4 回 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有 無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 「院内感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備し、遵守状況を院内各部署のラウンドで確認している。 2. 1回／週、ICT（ICD、感染管理認定看護師（CNIC）、臨床検査技師、薬剤師の4職種）が院内各部署のラウンドを行い、微生物ラウンド、環境ラウンドを実施している。微生物ラウンドに際して、資料（細菌検査室で全部署直近2週間分のラウンド対象患者一覧表）を毎回準備している。 3. 感染対策支援システム（電子カルテ端末上）で毎日、血液培養陽性者、抗酸菌陽性者、新規多剤耐性菌検出患者等の報告を確認し、部署の感染対策について情報共有している。また、毎週1回以上、ICTミーティングを行っている。 4. 院内感染を疑う場合には適宜、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。 5. 行政への報告対応が必要な場合には、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。 6. アウトブレイク等問題が発生した部署については、適宜介入し、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催している。アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して電子カルテ端末上で通知し、診療部長会、セーフティーマネジャー会を通じて感染対策についての周知徹底を図っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 19 回
・ 研修の主な内容： ○注意すべき医薬品の取り扱い ○安全管理が必要な医薬品 ○医薬品に関する最近の話題 ○TDM ○薬剤（内服・外用）について ○注射ラベルの表示 ○肺移植後の薬剤について ○静脈注射 ○抗がん剤	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有 無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○医薬品の採用：薬事委員会において、医薬品安全管理責任者の立場で採用の可否を審議 ○医薬品の管理：各部署で手順書業務確認表を用いて期限等を確認、月単位で医薬品安全管理責任者が確認 ○患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項：注射払出システムによるバーコード認証の導入 ○患者に対する与薬や服薬指導に関する事項：薬剤管理指導業務の推進 ○医薬品情報の収集・提供：医薬品情報室による情報収集と発信、副作用報告の一元管理 ○他施設との連携：持参薬の確認および退院時指導の推進、病診薬連携の推進	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 指示簿のセレネース注にパーキンソン病禁忌を標記した 2. 医療用外劇物（ホルマリン等）の管理強化 3. 販売名類似医薬品（例：リフキシマ錠とリクシアナ錠）の表示を工夫	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 病棟、外来で多く使用されている輸液、シリンジポンプの研修を新人医師と看護師を対象に医療安全管理部と計画し実施している。 年 2 回中途採用の医師を対象に医療機器についてのセミナーを実施。 臨床工学技士全スタッフ対象に 5 項目（血液浄化装置、補助循環装置、人工呼吸器、除細動器、保育器）の研修の実施。 新規購入機器に対し対象部署スタッフに使用方法の研修の実施。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 年間の機器（全 35 項目）保守計画を作成し院内点検とメーカー点検を実施し、記録している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： 臨床工学センターで機器の中央管理を行うことで、機器使用状況や修理状況の把握。 機器の一元化を行うことで安全使用が可能にある。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 13 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理者責任者は以下のように医療安全管理部門等を統括している。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院長と連携し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務の管理・指導を行っている。2. 医師・薬剤師・看護師の医療安全専従者(医療安全管理者)の業務の管理指導を行っている。3. 専門分野責任者と連携し、各部門の医療安全を推進・指導している。4. 医療事故発生時は、事故調査委員会、事故対策委員会における病院長の支援を行い、医療安全上の課題への対策について職員への周知、指導を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (11 名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ol style="list-style-type: none">1. 薬剤部薬品情報室に終日担当者を配置して情報の整理・周知を一元化 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none">1. 未承認医薬品の申請は実績なし2. 適応外・禁忌使用処方について、調剤支援システムを用いて抽出する <p>・担当者の指名の有無 (有)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有 無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の実席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有 無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：毎月診療科・部署の医師・看護師に対してインフォームドコンセント記録を基に、説明日時・場所、実席者 (医療者・患者の家族)、患者・家族の反応等が記載されているか等の事項について監査を行っている。不備が認められる場合はインフォームドコンセント委員会から部署に改善指導を行っている。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有) 無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療記録管理責任者として医療情報部長を、各診療科・部門に関する診療記録の管理担当者として各部門の長を配置している。</p> <p>診療記録管理責任者である医療情報部長の管理のもと、診療情報管理士を中心に①各病棟ラウンドによる入院診療計画書・同意書等の監査②入院診療計画書の作成率管理③入院カルテ庫受領時の診療記録の確認④退院サマリの回収率管理⑤指導料などの算定の根拠となるカルテ記載内容の確認⑥研修医カルテの承認状況などの診療記録の監査を実施し、不備訂正の依頼や指導を当事者へ直接実施するとともに、診療部長会、病床管理責任者連絡会（病棟医長、医局長出席）、へ監査状況報告及び改善依頼、指導を実施している。</p> <p>また、医師による自科及び他科のカルテ自主点検及び病床管理責任者連絡会において診療科毎のカルテレビューを通じて医師、看護師、コメディカルの意識統一と意識向上を図り診療記録の質的の向上に努めている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有) 無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（ ）名、兼任（８）名 うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名 うち看護師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理部は、医療の安全に必要な指導、安全対策の推進、患者の相談に関する業務を行う。</p> <p>1. 医療法施行規則に基づく業務</p> <p>ア. 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。</p> <p>イ. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分なされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>ウ. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>エ. 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>オ. 医療安全に係る連絡調整に関すること。</p> <p>カ. 高難度新規医療技術導入及び未承認新規医薬品等の使用の適否を決定する担当部門としての役割を担う。</p> <p>キ. その他医療安全対策の推進に関すること。</p> <p>2. 医療安全管理委員会で決定した方針に基づく業務</p> <p>ア. 医療安全カンファレンスで用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全カンファレンスの庶務に関すること。</p> <p>イ. 医療安全管理部小委員会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全管理部小</p>	

委員会の庶務に関すること。

ウ. セーフティマネジャー会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他セーフティマネジャー会の庶務に関すること。

エ. 事例検討会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他事例検討会の庶務に関すること。

オ. 患者および家族からのご意見・ご要望相談（医療紛争を除く）の対応に関すること。

カ. 相談内容に応じた関係部署及び関係機関との連絡調整に関すること。

キ. その他医療安全管理部長が必要と認めた業務に関すること

・ H28年4月から毎月手術時の血栓予防策実施状況、インフォームドコンセントの実施状況、輸血時のPDA認証状況等についてモニタリングを行い、診療状況の把握に努めている。

・ 院内ラウンドを毎月実施し、職員の医療安全に関する意識を把握し、意識向上のための方策を検討している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（6件）

・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）

・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）

・ 活動の主な内容：

1. 診療科の長から高難度新規医療技術の提供の適否について申請を受理したときは、申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。

2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等を決定し、申請を行った診療科の長に対し、その結果を適否結果通知書により通知する。

3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認められるときは、診療録等の記載内容を確認する。

4. 高難度新規医療技術の提供が適正な手続きに基づいていたかについて、医療提供者の遵守状況の確認を行う。

5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び医療提供者の遵守状況について確認したときは、その内容を病院長に報告する。

6. 高難度新規医療技術提供の評価に関する資料、議事録及び遵守状況確認記録は確認の日から5年間保存する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (1 件)、及び許可件数 (1 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 無)
- ・ 活動の主な内容：
 1. 担当部門の長は、診療部長から未承認新規医薬品等の使用の申請があったときは、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対し、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。
 2. 担当部門の長は、委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、申請のあった診療部長に対しその結果を通知する。
 3. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認める場合には診療録の記載内容を確認する。
 4. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかについて、従業者の遵守状況の確認を行う。
 5. 未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定した場合及び従業者の遵守状況について確認した場合は、その内容を病院長に報告する。
 6. 未承認新規医薬品等の評価に関する審査資料、議事録及び遵守状況確認記録は、確認の日から 5 年間保存しなければならない。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 349 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 52 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

診療科に対して、全死亡事例について「死亡・死産事例報告書」の医療安全管理部への提出を義務付けている。また、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したときは、特異事例として当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関して速やかな報告を求めている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り ((病院名：近畿大学病院) ・無)
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：近畿大学病院) ・無)
- ・技術的助言の実施状況
訪問側の所見及び受入れ側の改善策を記載した相互ラウンド実施報告書を作成し、相互に内容を確認している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
当該部署及び医療安全管理部で対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
別紙参照。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況
 - 【医療安全管理責任者】
日本医療機能評価機構 特定機能病院管理者研修
 - 【医療安全管理者 (専従医師)】
医療の質、安全学会総会
 - 【医療安全管理者 (専従薬剤師)】

国際医療リスクマネジメント学会 医療安全基礎講座 2018

九州厚生局 医療安全に関するワークショップ

日本病院会 医療安全管理者養成講習会(更新講習)

【医療安全管理者（専従看護師）】

平成 30 年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

【医薬品安全管理責任者】

平成 30 年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

九州厚生局 医療安全に関するワークショップ

日本医療機能評価機構 特定機能病院管理者研修

【医療機器安全管理責任者】

平成 30 年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

九州厚生局 医療安全に関するワークショップ

日本医療機能評価機構 特定機能病院管理者研修

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

平成30年度 医療安全・感染対策 全体教育

	月日	時間	内容	場所
第1回	4月23日(月)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	安全 「医療安全2018」 講師:坪井義夫先生(医療安全管理責任者) 感染 「感染制御2018」 講師:高田徹先生(感染制御部 部長) :橋本文代先生(感染対策担当管理者) 「B型肝炎、C型肝炎について」 講師:高田和英先生(消化器内科)	RI 講義棟
第2回	5月14日(月)	17:00~17:30 (遅刻5分まで)	安全 「インフォームド・コンセントについて」 講師:川崎弘詔先生(インフォームド・コンセント委員会委員長) :中村伸理子先生(医療安全管理部)	RI 講義棟
第3回	6月21日(木)	17:00~17:30 (遅刻5分まで)	感染 「耐性菌と抗菌薬のお話」 講師:戸川温先生(腫瘍・血液・感染症内科)	RI 講義棟
第4回	7月10日(火)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	安全 「医療事故からの学び ~システムと人の意識を変え安全文化を構築する~」 講師:永井弥生先生(群馬大学大学院医学系研究科総合医療学准教授) (群馬大学医学部附属病院(元)医療の質・安全管理部長)	RI 講義棟
第5回	7月26日(木)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	安全 「安全な輸血について ~ルールの遵守~」 講師:田中祐子先生(認定輸血検査技師) 「医療情報2018」 講師:志村英生先生(医療情報部部長)	RI 講義棟
第6回	9月7日(金)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	感染 「Antimicrobial Stewardship Program (ASP:抗菌薬適正使用支援)のアウトカム」 講師:村上啓雄先生(岐阜大学医学部附属病院生体支援センター長)	RI 講義棟
第7回	10月30日(火)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	安全 「医薬品の安全管理について(仮)」 講師:兼重晋先生(医薬品安全管理責任者) 感染 「細菌検体の提出方法について(仮)」 講師:恵良文義先生(感染制御部専任臨床検査技師)	RI 講義棟
第8回	11月30日(金)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	感染 「インフルエンザ対策(仮)」 講師:橋本文代先生(感染対策担当管理者) 安全 「医療ガスについて(仮)」 講師:山浦健先生(麻酔科部長、手術部部長)	RI 講義棟
第9回	12月18日(火)	17:00~17:30 (遅刻5分まで)	安全 「医療機器関連圧迫創傷:スキンケアについて(仮)」 講師:高木誠司先生(褥瘡対策室 室長) :直海倫子先生(皮膚・排泄ケア認定看護師)	RI 講義棟
第10回	1月11日(金)	17:00~17:30 (遅刻5分まで)	安全 「摂食嚥下障害と当院での食形態調整について(仮)」 講師:橋本文二先生(歯科口腔外科) :浦上聡子先生(摂食嚥下障害CN)	RI 講義棟
11月	2月	開催予定はありません		
12月	3月			

院内教育は、安全と感染の教育をそれぞれ年2回受講することが義務づけられています。
 テーマ予定内の「安全」、「感染」それぞれにつき、各1回の受講単位が付与されます。
 皆様の積極的な参加をお願いいたします。
 開催時間は、テーマ毎に17:00~17:30、17:00~18:00の予定です。
 遅刻は30分の院内教育の場合、5分。60分の院内教育の場合、10分まで受け付けます。

平成30年度 DVD研修会

	月日	時間	内容	場所
第1回	9月8日(土) 10日(月)~15日(土)	9:00~18:30	H30年4月~H30年7月開催分上映	臨床 小講堂
第2回	2月16日(土) 18日(月)~23日(土)	9:00~18:30	H30年9月~H31年1月開催分上映	臨床 小講堂

平成30年度 医療安全実践セミナー

	月日	時間	対象 定員	区分	テーマ	場所
第1回	7月24日 (火)	17:00~18:00	医師 看護師 30名	感染	「正しい血液培養の採り方」 講師:尾畑由美子先生(腫瘍・血液・感染症内科助教) 宮崎里紗先生(感染管理認定看護師)	多目的室
第2回	8月28日 (火)	17:00~18:00	医師 看護師 30名	感染	「正しい血液培養の採り方」 講師:尾畑由美子先生(腫瘍・血液・感染症内科助教) 宮崎里紗先生(感染管理認定看護師)	腫瘍センター ミーティング室
第3回	9月18日 (火)	17:00~18:00	全職員 40名	感染	「安全な尿道留置カテーテルの管理」 講師:宮崎里紗先生(感染管理認定看護師) 株)メディコン担当者	多目的室
第4回	11月22日 (木)	17:00~18:00	全職員 40名	感染	「安全な尿道留置カテーテルの管理」 講師:宮崎里紗先生(感染管理認定看護師) 株)メディコン担当者	多目的室

主催 : 医療安全管理部、感染制御部

規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>福岡大学病院診療部長会</p> <p>(1) 病院の診療、教育及び研究に関する事項</p> <p>(2) 病院運営に関する事項</p> <p>(3) その他病院長が必要と認めた事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>医局等、部署単位で所属長から回覧等により周知されている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有・<input checked="" type="checkbox"/>無)</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・<input checked="" type="checkbox"/>無)</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
井上 亨	○	医師	病院長
坪井 義夫		医師	副病院長
吉満 研吾		医師	副病院長
宮本 新吾		医師	副病院長
中川 朋子		看護師	副病院長
立花 時弘		事務職員	事務長
高松 泰		医師	腫瘍・血液・感染症内科部長
柳瀬 敏彦		医師	内分泌・糖尿病内科部長
三浦伸一郎		医師	循環器内科部長
向坂彰太郎		医師	消化器内科部長
中島 衡		医師	腎臓・膠原病内科部長
藤田 昌樹		医師	呼吸器内科部長
坪井 義夫(兼務)		医師	神経内科・健康管理科部長
川寄 弘詔		医師	精神神経科部長
廣瀬 伸一		医師	小児科部長
長谷川 傑		医師	消化器外科部長
岩崎 昭憲		医師	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科部長
山本 卓明		医師	整形外科部長

高木 誠司	医師	形成外科部長
井上 亨(兼務)	医師	脳神経外科部長
和田 秀一	医師	心臓血管外科部長
今福 信一	医師	皮膚科部長
田中 正利	医師	泌尿器科部長
宮本 新吾(兼務)	医師	産婦人科部長
内尾 英一	医師	眼科部長
坂田 俊文	医師	耳鼻咽喉科部長
吉満 研吾(兼務)	医師	放射線科部長
山浦 健	医師	麻酔科部長
近藤 誠二	医師	歯科口腔外科部長
鍋島 一樹	医師	病理部長
松永 彰	医師	臨床検査部長
竹田 津英稔	医師	内視鏡部長
熊川 みどり	医師	輸血部長
吉満 研吾(兼務)	医師	放射線部第一部長
長町 茂樹	医師	放射線部第二部長
山浦 健(兼務)	医師	手術部長
長谷川 傑(兼務)	医師	栄養部長
塩田 悦仁	医師	リハビリテーション部長
升谷 耕介	医師	血液浄化療法センター長
志村 英生	医師	医療情報部長
井上 亨(兼務)	医師	救命救急センター長
廣瀬 伸一(兼務)	医師	総合周産期母子医療センター長
鍋島 茂樹	医師	総合診療部長
鍋島 茂樹(兼務)	医師	東洋医学診療部長
神村 英利	医師	薬剤部長
中川 朋子(兼務)	看護師	看護部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・ ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

福岡大学病院長職務権限規程

人事及び予算執行・管理に係る福岡大学病院長の裁量についての申合せ
上記を令和元年度より施行予定。（令和元年8月1日より施行。）

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

施設長である病院長をトップとし、副病院長と事務長とともに執行部を結成している。

執行部で執り行われる病院経営戦略会議では事業計画が立案される。

診療科ならびに診療各部、看護部、事務部は、病院の基本理念を理解し、執行部の運営方針に協力する。

立案された事業計画は、経営に関しては企画運営検討委員会で検討、それ以外の事業については、それぞれの関連委員会にて審議され、病院の最高意思決定機関である診療部長会にて審議の上、承認される。承認された事業は、関連部署にて実施される。実施の結果はそれぞれの関連委員会委員長によって診療部長会にて報告される。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

副病院長参加

平成30年度特定機能病院管理者研修（坪井）平成30年11月23日

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1. 監査対象期間の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務実績についてヒアリングと記録を用いて監査する。</p> <p>2. 医療安全管理部門の各委員会、カンファレンス、活動内容について当事者からのヒアリングと議事録及び実施記録を用いて監査する。</p> <p>3. 必要に応じ、病院長及び開設者に対し、医療に係る安全について是正措置を講ずるよう意見を表明する。</p> <p>4. 管理者は業務結果について病院ホームページに公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有・<input type="checkbox"/>無)</p> <p>・ 公表の方法：病院ホームページ</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
横山晋二	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
早川晴美	久留米大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
田中正利	福岡大学病院		院内監査委員	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ <input type="checkbox"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

(様式第 6-3)

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容
福岡大学内部監査室、平成18年4月1日設置
年に一度、計画を策定して実施している。

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
病院経営ボード
- ・ 会議体の実施状況（ 年6回 ）
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ・無 ）（ 年5回 ）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ ）
- ・ 公表の方法

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称： 病院経営ボード

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 福岡大学学報、福岡大学病院診療部長会、福岡大学病院安全管理マニュアル

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 【機関名】日本医療機能評価機構 【時 期】平成26年11月22日付け 認定継続	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 近隣の地域に対する情報発信として、各種セミナーを開催している。 1つ目は、医療連携の促進・強化を目的として、福岡市医師会及び城南区医師会との共催で行う「福岡大学病院メディカルセミナー」と糸島医療圏の医療関係者を対象とした「糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会」である。 このセミナーは、各診療科の診療技術や研究内容、病院として取り組んでいる医療体制等について、当院の医師が講演やパネルディスカッションを行うもので年6~7回開催している。 2つ目は、地域の一般市民を対象とした「学んで予防!《福大病院 健康セミナー》」である。 このセミナーは、城南区役所や城南保健所、城南校区の自治協議会や公民館の協力のもと、地域の皆さまが知りたいと思っている「健康や病気の予防」をテーマに、当院の医師と城南区医師会推薦の医師との協同で2ヶ月に1回程度開催しており、各回100~200名の地域住民の参加がある。また、29年度からは早良区医師会の協力も取り付け、対象地域を広げてより多くの皆さまに聴講いただく機会を作っている。 3つ目は、地域がん診療拠点病院として、がん患者やそのご家族、そして一般市民を対象に「福岡大学病院がんセミナー」を開催している。 このセミナーは、がん治療の最前線の情報や各種がんの診療・治療・手術等の診療技術に関すること、また、がん治療中の薬物療法や食事療法、治療中の社会生活に関することなど、がんについてあらゆる知識や情報を発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>2科以上の診療科がセンターとして外来診療を行っている。</p> <p>「腎・泌尿器・膠原病センター」→腎臓・膠原病内科、泌尿器科</p> <p>「消化器センター」→消化器内科、消化器外科</p> <p>「呼吸器センター」→呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科</p> <p>「女性診療センター」→産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科</p> <p>「皮膚科・形成外科・美容医療センター」→形成外科、皮膚科</p> <p>「ハートセンター」→循環器内科、心臓血管外科</p> <p>「小児医療センター」→小児科、小児外科</p>	